

令和元年度

なごや生物多様性保全活動協議会 活動報告書



令和2年4月

なごや生物多様性保全活動協議会

目次

はじめに 1

なごや生物多様性保全活動協議会について 4

動物調査と保全対策部会 8

水辺の生きもの部会 14

生物情報モニタリングデータベース部会 20

オオキンケイギク対策部会 23

里山林・社寺林部会 25

なごや生きもの一斉調査2019～ひつつきむし編～ 29

なごや生物多様性サマースクール2019 33

養老孟司氏 講演会 35

あいち・なごや生物多様性EXPO 37

定例会 39

会員活動支援 40

熱田神宮におけるアリ調査 (寺本匡寛) 41

生物(植物)・分類生態研修会報告 (名古屋自然観察会) 42

講演会開催 (名古屋昆虫同好会) 43

地域活動支援 44

牧野ヶ池移入種スイレン抜根調査 (牧野ヶ池緑地保全協議会) 45

細口池の生きもの復活作戦 (細口池生きもの復活クラブ) 46

助成金事業 47

次世代育成事業「親子で楽しむ昆虫調査会」 (名古屋昆虫同好会) 48

生物多様性情報の発信媒体 (カードゲーム、生態系、web 図鑑) 開発プロジェクト (名古屋産業大学 エコレク部) 49

ツルマプロジェクト (鶴舞公園研究会) 50

国の天然記念物「イタセンパラ」の保護に繋がる活動 (木曽川高校 総合実務部) 51

東邦高校近隣におけるブルーギル捕獲と透明標本の制作 (東邦高校 科学研究部) 52

南山高等・中学校男子部 理科部生物班の活動 (南山高等・中学校男子部 理科部生物班) 53

会員団体の活動紹介・報告

相生山緑地自然観察会 54

「あいちの海」グリーンマップ 54

愛知守山自然の会 55

雨池ホテルの会 55

大高緑地湿地の会 56

尾張サンショウウオ研究会 56

雑木林研究会 57

滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会 57

地球ハグ倶楽部 58

中部蜘蛛懇談会 58

中志段味の自然を次世代に伝える会 59

なごや外来種を考える会 59

なごや環境大学実行委員会 60

公益社団法人 名古屋港緑地保全協会 60

名古屋昆虫同好会 61

名古屋産業大学 長谷川研究室 61

名古屋自然観察会 62

名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち 62

名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科 附属生物多様性研究センター 63

なごや森づくりパートナーシップ連絡会 63

NPO 法人 なごや東山の森づくりの会 64

NPO 法人 日進野菜塾 64

日本カメ自然誌研究会 65

日本野鳥の会愛知県支部 65

花水緑の会 66

隼人池を美しくする会 66

特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会 67

三河淡水生物ネットワーク 67

名東自然観察会 68

名東自然倶楽部 68

もりづくり会議 69

守山リス研究会 69

野生動物生態研究会 70

矢田・庄内川をきれいにする会 70

山崎川グリーンマップ 71

1. 生物多様性の10年

2020年（令和2年度）は、生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）で採択された世界目標である「愛知目標」の目標年であり、「国連生物多様性の10年（2011年～2020年）」の最終年という節目の年です。そのため、多くの国、自治体において、この10年間の取組を振り返り、次の10年に向けた活動を議論するための会議やイベントが開催されています。2020年1月11日（土）、12日（日）には、COP10が開催された名古屋国際会議場において、環境省・UNDB-J（国連生物多様性の10年日本委員会）・愛知県・名古屋市の主催で「あいち・なごや生物多様性EXPO」が開催され、本会はシンポジウムで取組発表、分科会「多様な主体の連携」で活動紹介とパネルディスカッションを行いました。

このEXPOでは、この日を新たな出発点として生物多様性保全の輪を拡げ、自然と共生した社会の実現に向けて行動していくための宣言が行われました（「生物多様性2020あいち・なごや宣言」文末に抜粋を掲載）。この宣言においては、本会が生物多様性保全活動の連携を推進するプラットフォームとして、またなごや生物多様性センターがその協働の拠点として盛り込まれました。

2. これまでの成果と表彰

本会では、会員による日々の部会活動の他に、一般参加を募って行うイベント的な活動として、主に、「ため池の池干し（以下、池干し）」、「なごや生きもの一斉調査（以下、一斉調査）」、「なごや生物多様性サマースクール（以下、サマースクール）」があります。池干しは本会の前身である「名古屋ため池生物多様性保全協議会の活動から数えて15池、4000人以上の参加を得て、外来種の防除と在来種の保全を行ってきました。一斉調査は毎年対象とする生物を変えながら、これまでに9回行い、3200人以上の参加を得てきました。調査の成果として、市内初記録とな

る種の発見、外来種の分布実態の把握等につながりました。また、サマースクールでは、団体会員が中心になって、普段触れ合うことが出来ない生き物や生態系と触れ合うことが出来る講座を毎年約15講座程度開催し、毎年400人以上の参加を得てきました。今では、定員の数倍の応募がある人気企画となりました。特に池干しや一斉調査は、全国的にも先進的な取り組みですが、回を重ね、そのノウハウを蓄積できたことは、本会の財産となりました。

こうした活動の積み重ねに対し、表彰という形で一つの評価を得ることになりました。2019年12月5日にUNDB-Jが主催する生物多様性アクション大賞2019のまもろう部門において、審査委員賞を受賞しました（図1）。また、UNDB-Jが推奨する「連携事業」として認定され、先のEXPOにおいてその表彰を受けました（図2）。これらの表彰は、本会会員並びに市民調査員の皆様、さらには本会に関心を寄せて活動にご参加頂きました個人、団体等の皆様のおかげでございます。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

3. ポスト愛知目標、今後の動きについて

ポスト愛知目標として、生物多様性保全に関わる動きで注目されているのが、2015年9月の国連総会で採択されたSDGs（持続可能な開発目標：達成年2030年）と2020年10月に中国の昆明で開催される生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）で採択される予定の生物多様性保全についての新たな世界目標です。名古屋市はまた、内閣府地方創成推進事務局が選定するSDGs未来都市に2018年に認定されており、環境と共生した都市像を創造していくことが期待されています。さらには、環境省による生物多様性国家戦略、愛知県の生物多様性戦略も2030年をターゲットにしたものが検討されており、2020年中には公表されるでしょう。

このように、2020年は国内外でこれまでの生

物多様性に対する取り組みが見直され、一層推進するための仕組みづくりが検討される年になることは間違いありません。また、再来年ではありますが、2021年には、本会及びなごや生物多様性センターの設立10周年の節目を迎えます。こうした大きな節目を迎え、本会もこれまでの10年間をしっかりと振り返り、これからの10年に向けた展望を描きたいと考えています。

この10年間で生物多様性の主流化はどこまで進み、浸透してきたでしょうか。今はまだ、主流化と言えるほどの状況にはない様に思います。多くの主体が参加可能な仕組みづくりを進めてきた本会が、このなごやの地で、生物多様性の主流化に果たせる役割は小さくないと考えています。協議会という多様な主体が参加し、それぞれの得意分野を持ち寄って事業展開する組織の強みを見直し、一層の活動の充実を図っていきたくと考えています。生物多様性の主流化で鍵を握るのは、地域の実情に詳しい市民、NPO等の市民セクターの活躍に他なりません。今後とも、皆様のご参加、ご支援、そして、ご指導を賜りたいと存じます。



図1. 生物多様性アクション大賞2019審査委員賞のロゴ



図2. UNDB-J連携認定事業のロゴ

【生物多様性2020あいち・なごや宣言】(抜粋)

*下線筆者

2010年、あいち・なごやで開催された生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)は、遺伝子資源の利用に関する枠組みを定めた「名古屋議定書」と、2050年の「自然と共生する世界」実現に向け、2020年までに緊急かつ効果的な行動を推進する「愛知目標」の採択という歴史的な成果を生み出しました。

あいち・なごやは、人口750万人を抱え、日本一の産業集積を誇る大都市圏である一方で、森里川海の多様で豊かな自然が存在する地域特性を踏まえて、県では「生態系ネットワークの形成」と「あいちミティゲーション」を両輪に人と自然との共生を目指す「あいち方式」を推進し、また、名古屋市では身近な自然の保全・再生を進める市民協働の拠点として「なごや生物多様性センター」を設立するなど、愛知目標の達成に貢献するため、様々な取組を進めてきました。

【生物多様性の現状把握】

あいち・なごやでは、研究者、住民、行政の連携によって多くの生物の生息・生育状況が明らかになり、《中略》、その成果は、県、名古屋市ともに2回にわたるレッドデータブック・レッドリスト改訂の形でまとめられ、さらに全国に先駆けて、グリーンデータブックあいち(全種リスト+指標種情報集)・ブルーデータブックあいち(外来種情報集)も公表されました。

しかしながら、生物多様性にはまだまだ未解明の部分が多く、保全の試みが新たな課題を引き起こすこともあります。生物多様性保全のためには、何よりも生物多様性に関する検証可能な情報の蓄積と調査研究が必要です。

《中略》

【多様な主体の連携】

《中略》COP10以降は、県内9地域の「生態系ネットワーク協議会」や「なごや生物多様性

保全活動協議会」、「三河湾環境再生パートナーシップ・クラブ」といった、生物多様性に着目した新たな連携のプラットフォームが構築され、生物多様性に関する活動の輪は大きく拡大しました。

こうした基盤の上に、企業やユースが中心になって地域を巻き込む取組など、各地域で様々な連携が進み、生物多様性の解明や生態系の保全・再生、生態系サービスの持続可能な利用、次代の担い手育成などに効果を上げています。

「自然と共生する世界」を実現し、未来の世代に引き継いでいくためには、今後、地域・世代・分野を越えた連携をさらに進め、社会変革にもつなげるシナジー（相乗効果）を生み出していくことが重要です。

また世界では、2015年9月の国連サミットで「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現を目指す「SDGs（持続可能な開発目標）」が採択され、その基礎となる生物多様性の重要性への認識が高まっています。しかし、一方で、2019年5月に発表された世界の生物多様性に関する政府間組織（IPBES）の報告書は、直ちに、幅広い分野における変革的な行動を世界規模で実施しなければ、「自然と共生する世界」を実現することはできないと警告しています。

私たちは、様々な立場の人々が一堂に会したこの「あいち・なごや生物多様性EXPO」を新たな出発点として、広い視野を持って連携の輪を広げ、「自然と共生する世界」の実現に向けて、一人ひとりが行動していくことをここに宣言します。

（2020年1月12日）

引用：名古屋市（更新日：2020年2月26日）
<http://www.city.nagoya.jp/kankyo/page/0000125928.html>（確認日：2020年3月2日）

なごや生物多様性保全活動協議会について

協議会の設立

名古屋市には東部丘陵地を中心に111箇所ものため池が現存しています。しかしながら、都市農業の衰退により、ため池の主な役割が「利水」から「治水」に変化しました。そのため、人とため池との係わりが希薄化したことや、外来種の侵入によって在来の生きものが減少したことで、ため池生態系の劣化が進んでいると言われています。

COP10開催決定を契機に、平成20年度から3年間、「名古屋ため池生物多様性保全協議会」を設立し、地域住民・市民団体・行政が協働でため池の生物調査や保全活動を行ってきました。

平成23年度からは、ため池に限らず他の生態系まで対象範囲を広げるとともに、侵略的な外来種の防除に力を入れるなど、活動内容を拡充するため、「名古屋ため池生物多様性保全協議会」の組織体制と人材を拡充し、「なごや生物多様性保全活動協議会」（以下「協議会」といいます。）を平成23年5月15日に設立しました。

協議会の設立目的は、「なごやに生息・生育する生物及びその環境を継続的に調査し、生物多様性の現状を把握するとともに、外来種防除などを通し、身近な自然の保全を実践する」ことです。

協議会の活動

協議会は、設立目的に基づき、市民・専門家・行政の協働で生物多様性に関する調査・保全活動を実施しています。

活動を支える事務局と拠点は「なごや生物多様性センター」が担っており、平成23～25年度の活動は、環境省からの交付金（環境省生物多様性保全推進支援事業）および名古屋市からの負担金により、平成26年度の活動は、一般財団法人セブン-イレブン記念財団の助成金および名古屋市の負担金により、平成27年度以降の活動は、名古屋市の負担金のみにより、事業を実施しています。

協議会が令和元年度に取り組んだ主な調査・保全活動は、アライグマ・ミシシippアカミミガメ・オオキンケイギクなどの外来種対策、市内のため池・水路などにおける生物調査と外来種防除、庄内緑地の池干しによる外来種防除等を実施しました。

また、身近な自然や生きものの一層の関心をもっていただく機会として、7～8月に小中学生を対象とした「なごや生物多様性サマースクール2019」を、11月には「なごや生きもの一斉調査2019」としてひつつきむしの調査を市民のみなさんと共に行いました。

調査・保全活動を通して得た結果については、収集・蓄積し今後に生かすために、生物情報モニタリングデータベースの構築を進めています。

協議会の取り組みを発信する場として、令和2年5月11日に活動報告会を実施します。

協議会の構成

協議会は、令和2年3月末現在、23の個人会員、43の団体会員、名古屋市で構成しています。1年間の事業計画や事業報告については、総会にて議決します。

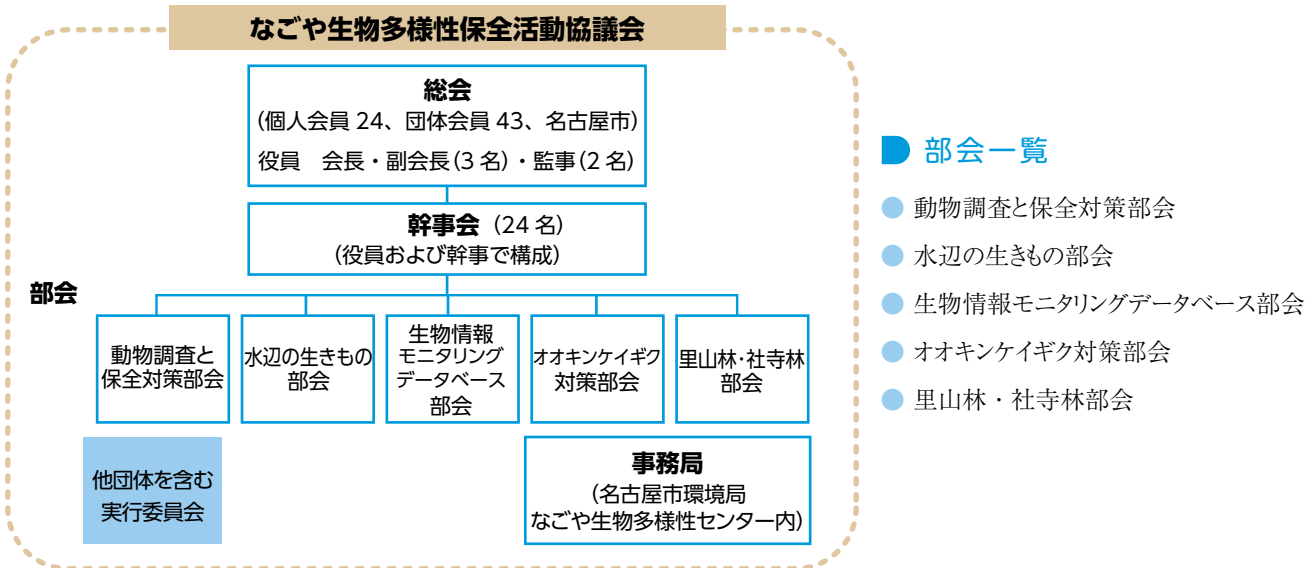
また、役員（会長・副会長3人・監事2人）と幹事（18人）を置き、幹事会にて運営に係る事項について協議しています。

事業の実施にあたっては、活動分野ごとに部会を設置し、部会ごとに調査内容・方法・日程・調査者等の計画を作成し、実施しています。事務局は、各部会や実行委員会の実施する調査や会議、イベントについて、準備、連絡調整等の役割を担っています。

市民の方を対象に、協議会が実施する調査やイベントなどへ参加いただく仕組みとして、「なごや市民生きもの調査員」を募集しています。登録いただいた方へは、イベントなどの募集情報を随時案内しています。（令和2年2月17日現在・登録者数917名）

なごや生物多様性保全活動協議会について

平成30年度協議会の組織・構成



幹事一覧

(令和2年3月末現在・敬称略)

氏名	所属等	備考
石原 則義	愛知守山自然の会／名古屋自然観察会	
梅本 洋子	花水緑の会	副会長
大塚 徹	市内外来種及びため池調査	
大沼 淳一	個人会員 (専門分野／水質)	
大矢 美紀	山崎川グリーンマップ	
小菅 崇之	個人会員 (専門分野／水生植物)	副会長
柴田 良成	中部蜘蛛懇談会	
鷺見 順子	滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会	監事
瀧川 正子	NPO法人 なごや東山の森づくりの会	
津田 美子	名古屋市立日比野中学校	
富田 啓介	愛知学院大学教養部講師	
寺西 慶徳	なごや環境大学実行委員会	監事
野中 賢輔	なごや外来種を考える会	
橋本 啓史	名城大学農学部生物環境科学科准教授	副会長
堀田 守	名東自然観察会	
間野 隆裕	名古屋昆虫同好会	
眞弓 浩二	雑木林研究会	
森山 昭彦	中部大学応用生物学部環境生物科学科教授	
高木 和彦	名東自然倶楽部	
矢部 隆	日本カメ自然誌研究会	
榊原 靖	名古屋市環境科学調査センター研究員	
長谷川 泰洋	名古屋産業大学環境ビジネスコース長谷川泰洋研究室	会長
佐藤 裕美子	名古屋自然観察会	
高尾 知基	名古屋市環境局環境企画部主幹 (生物多様性の保全担当)	

● 会員一覧

● 団体会員

団体名
相生山緑地自然観察会
「あいちの海」グリーンマップ
愛知守山自然の会
雨池ホタルの会
荒池ふるさとクラブ
伊勢・三河湾流域ネットワーク
大高緑地湿地の会
尾張サンショウウオ研究会
かんでら monzen 亭「笠寺ミツバチプロジェクト」
特定非営利活動法人 環境市民 東海事務所
白玉星草と八丁トンボを守る島田湿地の会
雑木林研究会
滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会
地球ハグ倶楽部
中部蜘蛛懇談会
中志段味の自然を次世代に伝える会
なごや外来種を考える会
なごや環境大学実行委員会
公益財団法人 名古屋港緑地保全協会
名古屋昆虫同好会
名古屋産業大学環境ビジネスコース長谷川泰洋研究室
名古屋自然観察会（愛知県自然観察指導員連絡協議会名古屋支部）
名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち
名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科生物多様性研究センター
名古屋市立鳴子台中学校科学部
なごや森づくりパートナーシップ連絡会
NPO法人 なごや東山の森づくりの会
NPO法人 日進野菜塾
日本カメ自然誌研究会
日本野鳥の会愛知県支部
花水緑の会
隼人池を美しくする会
特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会
三河淡水生物ネットワーク
名城大学理工学部環境創造学科齊藤研究室
名城大学理工学部環境創造学科谷口研究室
名東自然観察会
名東自然倶楽部
もりづくり会議
守山リス研究会
野生動物生態研究会
矢田・庄内川をきれいにする会
山崎川グリーンマップ

(令和2年3月末現在・敬称略)

● 個人会員

氏名
飯尾 俊介
伊東 英幸
御池 俊輔
太田 貴大
大塚 徹
大沼 淳一
加藤 航大
川瀬 基弘
小菅 崇之
佐藤 裕美子
高木 順夫
高見 真宏
高山 博好
津田 智
津田 美子
寺本 匡寛
土山 ふみ
研谷 厚
富田 啓介
橋本 啓史
伴 知幾
松沢 孝晋
守谷 茂樹
森山 昭彦

● 名古屋市

なごや生物多様性保全活動協議会事務局を、なごや生物多様性センター内に置く。

なごや生物多様性保全活動協議会について

● 通常総会の開催

開催日	
5月12日	1 平成30年度事業報告について 2 平成30年度決算報告について 3 平成30年度会計監査報告について 4 令和元年度役員選任について 5 令和元年度事業計画（案）について 6 令和元年度収支予算（案）について

● 幹事会の開催

第1回	4月18日	1 平成31年度事業計画（案）について 2 平成31年度通常総会・平成30年度報告会について 3 一斉調査について
第2回	6月27日	1 令和元年度監事について 2 新規会員について 3 各部会報告等 4 環境デーなごや2019中央行事 生物多様性ひろばについて 5 未来へつなぐ「国連生物多様性の10年」せいかりレーについて 6 会員活動支援について 7 一斉調査について
第3回	7月25日	1 各部会報告等 2 広報部会のあり方について 3 環境デーなごや2019及び「国連生物多様性の10年」せいかりレーについて 4 一斉調査について
第4回	9月26日	1 各部会報告等 2 会員活動支援について 3 広報部会のあり方について 4 一斉調査について
第5回	10月24日	1 新規会員申請について 2 各部会報告等 3 一斉調査について 4 令和2年度総会、令和元年度活動報告会について
第6回	11月28日	1 各部会報告等 2 協議会活動報告書について 3 令和2年度助成金について
第7回	1月23日	1 せいかりレー等について 2 各部会報告等 3 令和元年度決算見込みについて 4 令和2年度協議会事業について 5 令和元年度報告会について 6 令和2年度会員活動支援について 7 一斉調査2020について 8 池干しについて
第8回	2月27日	1 各部会報告等 2 新規会員について 3 ベストプラクティスについて 4 令和2年度協議会事業について 5 令和元年度報告会について 6 池干しについて

はじめに

市内と周辺地域に生息する野生動物について、部会員と有志（学生、専門家、大学研究室、保全団体等）が協力して、種ごとの分布状況や生息環境の特性を明らかにする調査・研究を行っている。

また、調査で採集、捕獲した生物や駆除等で捕獲した生物について、計測や解剖、標本化を実施している。それらの結果や標本については「なごや生物多様性センター」に収蔵・蓄積している。

さらに、これらの結果や資料を基に、外来種の防除や在来種の保護、保全を計画、実施している。

その他、活動内容や調査・研究結果を伝える啓発、展示、環境学習、調査実習、大学生の卒業論文等にも協力している。

主な活動内容

- ・カメ類調査とアカミミガメ等外来カメ類の防除
- ・ニホンイシガメの保護・保全
- ・センサーカメラによる哺乳類の生息分布調査
- ・トラップによる哺乳類の生息分布調査とアライグマ等外来哺乳類の防除
- ・コウモリ類の生息分布調査
- ・才井戸流周辺に生息する動物の保護・保全活動
- ・解剖と標本作製
- ・カメ類等の外来種問題と在来種の保全に関する啓発活動

今年度の活動記録

●カメ類調査とアカミミガメ等外来カメ類の防除

内容 カゴ罠を使用したカメ類の捕獲調査は以下の場所と日程で実施した。

二ツ池（守山区）：5月17日～19日

天白川（天白区）：6月1日～3日

隼人池（昭和区）：6月17日～19日

7月13日～14日

細口池（天白区）：8月23日～24日

また、浮島型罠を使用したカメ類の捕獲調査は、以下の地域と日程で実施した。

隼人池（昭和区）：4月1日～継続中

二ツ池（守山区）：6月21日～10月20日

天白川（天白区）：9月24日～11月15日

細口池（天白区）：9月24日～11月27日

山崎川（瑞穂区）：10月16日～10月30日

連携 天白・川辺の楽校、二ツ池の自然と緑を守る会、隼人池を美しくする会、細口池生きもの復活クラブ、山崎川グリーンマップ、名古屋ECO動物海洋専門学校。



浮島型罠の設置（二ツ池）



浮島型罠で捕獲したアカミミガメ（天白川）

動物調査と保全対策部会

●ニホンイシガメの保護・保全

内容 オスの確認数が著しく減少しているニホンイシガメについて、オスの孵化を目的として孵卵温度(27℃以下)を管理し、繁殖させたニホンイシガメの幼体をなごや生物多様性センター内で育成した。前年度に続いて、猪高緑地の井堀下池とメダカ池において、ニホンイシガメの幼体を捕食する可能性のあるウシガエルの防除捕獲を実施した(6月8日～8月2日)。

連携 名東自然倶楽部、なごや外来種を考える会。



ウシガエルの防除捕獲(猪高緑地・井堀下池)



防除捕獲したウシガエル(猪高緑地・井堀下池)

●センサーカメラによる哺乳類の生息分布調査

内容 大高緑地(4月1日～)、東山動植物園(4月1日～)、小幡緑地(6月1日～)、猪高緑地(8月2日～)に自動撮影用のセンサーカメラを設置した。

連携 花水緑の会、愛知守山自然の会。



センサーカメラの設置(猪高緑地)

●トラップによる哺乳類の生息分布調査とアライグマ等外来哺乳類の防除

内容 ヌートリアによる稲の食害被害があった猪高緑地の水田付近において箱罠による捕獲調査を実施した(8月7日～22日)。小型哺乳類(ネズミ類、モグラ類)の捕獲調査については、庄内川河川沿いにおいて、シャーマントラップによる捕獲調査を実施した(11月18日～20日)。また、アライグマを含む中～大型の哺乳類の箱罠による捕獲調査については、小幡緑地(3月2日～)、八竜緑地(3月3日～)、平和公園(3月3日～)、猪高緑地・塚ノ杵池(3月3日～)、猪高緑地・井堀(3月4日～)、大高緑地(3月5日～)で実施予定である。

連携 名城大学農学部環境動物学研究室、愛知守山自然の会、水源の森と八竜湿地を守る会、なごや東山の森づくりの会、名東自然倶楽部、花水緑の会。



小型哺乳類の捕獲調査（庄内川）

●コウモリ類の生息分布調査

内容 大村池と才井戸流において音声調査を実施した。特に、キクガシラコウモリが確認されている才井戸流では、出巢と帰巢の確認のために、ねぐら入口付近に自動録音装置を設置した。

大村池（守山区）：9月30日

才井戸流（守山区）：9月17日、10月9日、
10月23日

連携 中志段味の自然を次世代に伝える会。名古屋ECO動物海洋専門学校。



コウモリ類の音声調査（才井戸流）



自動録音装置の設置（才井戸流）

●才井戸流周辺に生息する動物の保護・保全活動

内容 現在、市内で唯一確認されているキクガシラコウモリのねぐらの環境調査を実施し、ねぐらの形状や土砂に埋まっている状況等を記録した（11月17日）。

連携 中志段味の自然を次世代に伝える会。名古屋ECO動物海洋専門学校。



キクガシラコウモリのねぐら調査（才井戸流）

●解剖と標本作製

内容 なごや生物多様性センターで収集している動物（アライグマ、ハクビシン、ヌートリア、ワニガメ等）についての解剖と標本作製を実施した。

作製した標本はなごや生物多様性センターに収蔵した。また、採取した組織についてはDNA分析用に無水エタノールで保存し、なごや生物多様性センターに保管した。

連携 名城大学野生動物生態研究会、なごや生物多様性センター。



ワニガメの解剖と標本作製（なごや生物多様性センター）

動物調査と保全対策部会

●カメ類等の外来種問題と在来種の保全に関する啓発活動

内容 東山動植物園の動物会館で東山動植物園の敷地内に生息する野生動物についてのパネルと標本の展示を行った。

連携 東山動植物園、なごや生物多様性センター。



啓発展示（東山動植物園・動物会館）

結果の概要と今後について

調査結果の詳細については、今後、資料編でまとめる。ここでは本年度に実施した調査の結果概要と今後の課題について報告する。

●カメ類調査とアカミミガメ等外来カメ類の防除

2009年からアカミミガメの捕獲を実施している隼人池では、捕獲数が激減した。しかし、本年度は昨年度に孵化したと推測される幼体が複数個体捕獲された。隼人池では捕獲をはじめて10年以上が経過しているが、未だアカミミガメを完全に除去できていない状況である。

二ツ池では上池、下池とも成体のアカミミガメだけではなく、前年度に孵化したアカミミガメの幼体も捕獲されており、アカミミガメが繁殖していると考えられた。

細口池ではこれまでの調査でアカミミガメを捕獲できていない。本年度の調査ではカゴ罟と

浮島型罟による二つの手法で試みたが、捕獲することはできなかった。しかし、目視ではアカミミガメが確認されており、確実に生息しているものと推測される。細口池は他の調査地とは異なり、抽水植物が池の大半を覆うほど繁茂している。そのため、罟を設置する水面の面積も小さい。そのことが、アカミミガメが捕獲できない原因であるかもしれない。

天白川では、カゴ罟と浮島型罟による二つの手法で捕獲を実施し、アカミミガメが多数捕獲された。河川では、捕獲しても上流や下流域からの流入があるため、個体数の極端な減少は認められないことが多い。しかし、別水系の山崎川では、長年、アカミミガメの除去を継続した結果、調査地域においてはアカミミガメの捕獲数が減少している。



抽水植物の繁茂でアカミミガメが捕獲できない細口池

●ニホンイシガメの保護・保全

【ニホンイシガメ・オス個体増殖の試み】

本年度、塚ノ杵池、鏡ヶ池、隼人池原産の成体を使って飼育下での繁殖を試みたが、いずれも産卵には至らなかった。昨年度、一昨年度と飼育下での繁殖には成功していたが、今回、失敗した。失敗の原因については分かっていない。

昨年度に孵化した鏡ヶ池原産の個体と一昨年度に孵化した塚ノ杵池原産の幼体については、すでにオスであることを確認できるサイズに成長

した。今後、塚ノ杵池原産の幼体は塚ノ杵池と同じ猪高緑地内にある井堀下池に、また、鏡ヶ池原産の個体は同じ山崎川水系の隼人池に放逐する予定である。

【ウシガエルの防除捕獲】

昨年度に続いて、本年度も猪高緑地の井堀下池とメダカ池において、ニホンイシガメの幼体を捕食する可能性のあるウシガエルの除去を実施したが、成体、幼体とも多数捕獲された。捕獲個体については昨年度の取りこぼし個体が成長した可能性もあるが、猪高緑地内の他の地域から移動してきた可能性も否定できない。来年度も継続して防除捕獲を実施する予定である。

●センサーカメラによる哺乳類の生息分布調査

本報告書の執筆時点では、センサーカメラによる本年度の撮影結果がすべて明らかではないため、詳細は資料編で報告する。現時点においては大高緑地でアカギツネが頻繁に撮影されている。アカギツネが大高緑地に定着したことは明らかであろう。



大高緑地で撮影されたアカギツネ

●トラップによる哺乳類の生息分布調査とアライグマ等外来哺乳類の防除

小型哺乳類の捕獲調査では、庄内川でアカネズミを捕獲した。捕獲したアカネズミの組織については、名城大学学生（名城大学農学部環境動物学研究室）の卒業論文用に提供された。

ヌートリアの食害被害があった猪高緑地の水田付近では、一定期間箱罫を設置したがヌートリアを捕獲できなかった（ただし、ウシガエル捕獲のために設置したアナゴ罫では捕獲された）。次年度は田植え時期の前から箱罫を設置する予定である。

アライグマを含む中型哺乳類の捕獲調査は本報告書の執筆時点では結果が出ていない。次回、資料編にて詳細を報告する。



ヌートリアによる稲の食害跡（猪高緑地）

●コウモリ類の生息分布調査

森林公園にある大村池では、3種類以上のコウモリ類の音声が確認された。この内、市内ではこれまでほとんど確認されたことのなかった種の音声も確認されたことから、大村池には明らかに市内未確認種が訪れていると推測された。

才井戸流にある防空壕の入口では、昨年度と同様、キクガシラコウモリが発した音声を多数確認した。また、自動録音装置を設置することにより、出巢時間と帰巢時間を記録した。しかし、ねぐらを利用してコウモリの個体数を把握することはできなかった。来年度は、夜間撮影が可能な装置を使用してねぐらを利用してコウモリの個体数を明らかにしたい。

●才井戸流周辺に生息する動物の保護・保全活動

ねぐらの形状や土砂に埋まっている状況等を記録したところ、確認した5個の入口の内、確実にコウモリ類の出入りできる入口は1個であった。その他については、2個が土砂で完全に埋まっており、また、2個は入口が見られるものの、土砂が堆積しており、コウモリ類の出入りが難しい状況である。

来年度はキクガシラコウモリの専門家に視察に来てもらい、ねぐらの保全と今後の対応について考えていきたい。

●解剖と標本作製

本年度に作製した標本は、登録番号を付け「なごや生物多様性センター」に収蔵した。また、啓発や展示に使用するための専用の標本も作製した。これらの標本は「環境デーなごや2019」や「あいち・なごや生物多様性EXPO」で展示された。

アライグマの組織サンプルの一部については、県内へのアライグマの侵入経路を分析している長野県に提供した。今後、結果の一部については共有することになっている。

●カメ類等の外来種問題と在来種の保全に関する啓発活動

本年度と同様、座学や現地調査だけではなく、標本やポスターを使った啓発活動をすすめていく予定である。

水辺の生きものの部会

部会長 榊原 靖／今井 洸貴／寺本 匡寛／小菅 崇之／鵜飼 普

はじめに

水辺の生きものの部会では、名古屋市およびその近郊にある水域（周辺域を含む）に生息・生育する水辺の生きものについて、なごや生物多様性保全活動協議会員、市民調査員、学生、専門家、保全団体などと協働で分布調査、生息・生育環境調査を行っています。また、環境教育や次世代育成にも力を入れています。これらの活動から得られた知見を発信し、在来種の保全対策や外来種の防除対策を計画・実施することにより、生物多様性の保全に寄与しています。

令和元（平成31）年度の活動

- 池干し
- 池干しモニタリング調査
- 次世代育成とカワバタモロコの保全
- カエルの調査と保全対策
- 水田・水路及びその周辺の生物調査
- カワバタモロコの保護と生体標本の維持管理
- 外来種対策および普及啓発
- 才井戸流のスナヤツメの確認
- 水辺の植物調査と保全対策

令和元（平成31）年度の活動記録

●池干し

○ガマ池（庄内緑地）



図1. 池干し



図2. フネドブガイ



図3. グロキディウム幼生

水質の改善を目的とし、公園管理者主催の下、2019年12月8日に行われました。なごや生物多様性保全活動協議会は生き物の捕獲、運搬、仕分けに協力した形での参加となりました。池干しの結果、19科23種の生き物が確認されました。最も個体数が多かったのはスジエビで5669個体（39%）、次いでフナ類が3493個体（24%）となっており、モツゴが2857個体（20%）でした。この3種で全体の83%を占めていました。注目すべき種として、フネドブガイ（図2）が確認されました。フネドブガイは名古屋市初記録であり、在来、外来の判定も含め調査中です。フネドブガイの幼生（グロキディウム）はヨシノボリ類のヒレに寄生する生態を持っています。池干しの際、グロキディウムが寄生したヨシノボ

リ類（図3）が確認され、重要な記録となりました。外来種にはカダヤシや越冬中のウシガエルの幼生などが確認されました。捕獲した生き物のうち、在来種は下流のポート池に放流し、外来種は生態系に影響を及ぼす恐れがあるため取り除きました。池干し後は定期的なモニタリング調査により、経過観察を行う予定です。

今回の池干しの様子は2020年1月5日放送のナゴヤでしょ！（中京テレビ）で紹介されました。同内容は動画配信サイトYouTubeでも紹介されています。また、なごや生物多様性センターが発行する「生きものシンフォニー第30号」にも関連記事が掲載されます。併せて是非、ご覧ください。

執筆者：今井 洸貴

●池干しモニタリング調査

○滝ノ水北池

2017年度に池干しを行った名古屋市緑区の滝ノ水北池において、2018年度に引き続き、モニタリング調査を5月、8月、9月、10月の4回、たも網とモンドリを用いて行いました。池干し前に取り除いた外来水草のハゴロモモは昨年度に引き続き、再発生していないことが明らかになりました。昨年度に引き続き、アメリカザリガニが多数捕獲されました。アメリカザリガニは池や池周辺の環境に影響を及ぼすため、低密度に維持することを目的に駆除しました。捕獲されたすべての個体で雌雄判断と頭胸甲長を記録しました。4回の調査で合計842個体（オス316個体、メス526個体）を捕獲しました。これらは持ち帰り、生体標本の飼料として活用しました。アメリカザリガニは依然として多数確認されたものの、総数、平均頭胸甲長が減少していました。地域の保全団体を中心にアメリカザリガニを取り除いているとのことで、その効果が表れているのではないかと考えられます。

新たな外来種として、8月の調査ではカダヤシが確認されました。滝ノ水北池は構造上、魚

が自由に出入りできません。したがって、人の手によって放流されたものと考えられます。

在来種では、トンボの幼虫やマツモムシなどの水生昆虫が多数確認されました。また、水路を歩いてきたと考えられるモクズガニが多数確認されました。外来種を低密度に維持し、在来種の多い環境を作ることができかが課題です。

執筆者：今井 洸貴

○戸田川緑地

カワバタモロコの保全池として機能させるべく、2018年度に池干しを実施した農業文化園・戸田川緑地において、6月と10月の2回、たも網とモンドリを用いてモニタリング調査を行いました。調査の結果、アメリカザリガニとウシガエル、モツゴが激増していることが明らかになりました。特に、アメリカザリガニは下池では底一面が赤く見えるほどの数でした。下池ではコイやフナ、キンギョなど、池干しの際に取り除いた生き物が再確認されたことから、外部からの移入があったと考えられます。

保全池としての機能を評価するにあたり、試験的にカワバタモロコ（オス15匹、メス30匹）を2019年3月に放流しました。調査の結果、放流したカワバタモロコは1匹も確認することができませんでした。池干し後に激増したアメリカザリガニやモツゴなどと競合した可能性が考えられ、現段階では保全池として活用するのは難しいと考えられます。引き続きカワバタモロコの生存確認、外来種の除去など活動が続けていきます。

執筆者：今井 洸貴

●次世代育成とカワバタモロコの保全

○環境学習講座



図4. 約60名の6年生が受講

2018年度に行われた戸田川緑地の池干しを受け、協議会はカワバタモロコ保全の普及啓発活動を、名古屋市港区の福春小学校は総合学習講座において、地域に根差した環境教育を目的に、環境学習講座を6月、7月、12月、2月の4回行いました。また、学生たちが、将来のなごやの生物多様性保全をリードする人材に成長することを期待して、講師は大学生が行いました。

第1回では、環境保全活動の一部として池干しについて説明を行いました。また、この時に危険分散の意味を含め、教材としてカワバタモロコを提供しました。第2回では、カワバタモロコについて生態や飼育方法、名古屋市での生息状況を説明しました(図4)。第3回では名古屋市を含め、カワバタモロコがなぜ絶滅の危機に瀕しているのかを生徒に考えてもらいながら説明しました。この際、提供したカワバタモロコが繁殖したことを確認しました。最終回では、講座の総まとめとして、環境保全のために自分ができることを考え、発表してもらいました。全講座を通して、生徒の反応は良く、積極的な発言が多かったと思います。生き物や池干しに関する知識も豊富で、聞くところによるとこれらを取り上げるテレビ番組の影響があると考えられました。授業後には追加で質問をしに来る生

徒や、水槽のカワバタモロコを眺める子がおり、講座の意義を確認できました。

執筆者：今井 洸貴

○普及啓発活動

2019年9月14日に久屋大通公園で開催された「環境デーなごや」、2020年1月11日、12日に名古屋国際会議場で開催された「あいち・なごや生物多様性EXPO」にブース出展しました。カワバタモロコの生体展示、紹介ポスターを用い、一般参加者や出展者と交流しました。環境デーなごやではおよそ1100名、あいち・なごや生物多様性EXPOでは2日間でおよそ800名の方にお越しいただき、カワバタモロコについて知っていただくことができました。同時に、これからの環境保全活動に役立てられる有益な情報交換を行うことができました。

執筆者：今井 洸貴

●カエルの調査と保全対策

○名古屋市内及びその近郊に分布するカエル調査(ナゴヤダルマガエルの幼生・幼体の捕獲)

ナゴヤダルマガエル *Pelophylax porosus brevipodus* は、環境省や生息が確認されているすべての府県でレッドデータブックに掲載されています。一方で、濃尾平野では広域に分布し、特に尾張地方では生息密度が高いとされています。そこで、名古屋市およびその近郊の圃場整備が完了した水田において、湛水時期と中干しに注目して、中干し前に変態可能かどうかを *Polymerase Chain Reaction* 法 (PCR法) を用いて混獲されたトノサマガエル *P. nigromaculatus* とその雑種を含めて調査しました。

その結果、5月下旬に湛水が開始され、7月中から下旬にかけて中干しが開始される地域において、中干し前にトノサマガエルとナゴヤダルマガエルの一部が上陸できることが明らかになりました。また、水稻耕作時期が同時期の宮田用水と木津用水を使用する尾張地域において

も、中干し前に両種の一部が上陸可能と考えられました。

なお、PCR法による種同定には、名古屋大学環境学研究科／理学部生態学講座／夏原研究室の森山倫太郎氏の協力を得て行いました。

執筆者：寺本 匡寛

●水田・水路及びその周辺の生物調査

○アカハライモリの幼生調査

名古屋市では生息域が極めて狭く、最もランクの高い絶滅危惧IA類に評定されています。現在の生息域も健全とはいえず、消失してしまう恐れが著しく懸念されています。

2017年度に天白区で新産地が確認されて以降、継続して繁殖していることを確認しています。

本年度も調査を試みましたが、採捕には至りませんでした。生息地は昨年とは異なり人為的に整備がなされていました。これにより卵塊が消失したのか、繁殖がなされなかったのかは判断できませんでした。今後も新産地のモニタリングを継続していきます。

執筆者：鵜飼 普



図5. 名古屋市天白区の水路

●カワバタモロコの保護と生体標本の維持・管理



図6. カワバタモロコの稚魚 (26mm)

2015年度の名古屋市の土地区画整理事業にて生息地を失ったカワバタモロコを、昨年度に続き域外保全として累代飼育を行いました。今年は稚魚(図6)を218個体得ることができました。保護した個体群を供試体にカワバタモロコの繁殖条件、産卵基質の選択性を調査することで確実な人工繁殖法の確立を目指し、自然条件下での個体群の保全に役立てたいと考えています。

執筆者：今井 洸貴

●外来種対策と普及啓発

○ニホンヒキガエルの捕獲

猫ヶ洞池で採集したアズマヒキガエルの卵塊を核DNA解析した結果、ニホンヒキガエルと亜種間交雑していることが明らかになりました。mtDNA解析からニホンヒキガエルが検出されていますので、♀のニホンヒキガエルが産卵しています。10月24日にニホンヒキガエルの成体の捕獲を試みましたが残念ながら捕獲には至りませんでした。ニホンヒキガエルの寿命は自然界では7年程度のため、引き続き卵塊を取り除き、成体の捕獲を試みる必要があります。

執筆者：鵜飼 普

○園芸スイレンの除去

11月に千種区の東山新池で、園芸スイレンの除去活動を行いました。春と秋のどちらの方が除去しやすいかを調べるために、今年度は2回の作業を行いました。いずれも例年並みに増えた分の除去を行うことができましたが、どちらかと言うと、園芸スイレン生育状況からも、秋の方が作業しやすいと思いました。また秋の除去活動では工事の影響で水位が50cmほど低い状況で、より水深の深い場所のスイレンを除去できる反面、屈んだ状態での作業となるために体への負担が大きいなど、一長一短を感じました。

執筆者：小菅 崇之



図7. 除去作業の様子

●水辺の植物と保全対策

○オニバスの調査

7月に名古屋城外堀北東部において調査を行いました。根付いているオニバスは3株ありました。最も大きな葉は直径18cmで、次いで12cm、7cmでした。今年は過去に見られた中で最も西側にまで発芽が確認できました。浮遊しているオニバスは3株見つかりました。

他の水生植物は、オオカナダモ、ヤナギモ、ヤナギタデ、ウキヤガラ、ハス、トチカガミ、キショウブ、ヨシ、マコモ、アオウキクサ、コゴメイが見られました。トチカガミに関しては2株が見つかり、北東部では初確認となりました。

執筆者：小菅 崇之



図8. オニバス

○トチカガミのモニタリング調査

2017年9月に名古屋市中区本丸1に位置する名古屋城の御深井丸大堀（以下、名古屋城外堀）において、名古屋市では絶滅したとされるトチカガミ科トチカガミ *Hydrocharis dubia* (BL.) Backerが名古屋市で12年振りに、名古屋城外堀で37年振りに再確認されました。殖芽が形成されており、越冬後の2018年にも2017年の確認地点を中心に確認されました。再確認されてから2年後となる本年度も確認され、本種の分布は年々広がっていました。1967年に確認されているが2017年・2018年に確認されなかった場所においても確認され、1967年当時の分布状況と一致したことから、埋土種子から再生した可能性が高まりました。なお、トチカガミの埋土種子は少なくとも約40年後に再生した事例もあり十分に再生可能です。

また、トチカガミ以外にもハス *Nelumbo nucifera*、ガマ *Typha latifolia* など近年分布が確認されなかった場所で水草の発芽・生育が確認されるようになってきています。

執筆者：寺本 匡寛

○水田雑草の調査

千種区、東山の森の水田において2015年度に絶滅危惧種のトリゲモ類が確認され、その後も調査を続けてきました。トリゲモ類は年を追う

水辺の生きものの部会

ごとに自生域が減少しており、6月の時点の予備調査では確認ができていたものの、9月17日の調査時点では全く確認することができませんでした。何らかの要因で絶滅したことになります。この水田は除草剤を使っていないので、アメリカザリガニの個体数増加による食害が疑われました。その後、9月22日になごや東山の森づくりの会の方々がザリガニの捕獲を行い、340匹を駆除しました。アメリカザリガニの根絶は難しいものの、捕獲により個体数が低減した状態を続けられれば、埋土種子からの発芽でトリゲモ類の個体数は回復するものと思われます。

執筆者：小菅 崇之

ともに、積極的に、協働調査、普及啓発を行っていく予定です。活動の内容や趣旨に賛同していただき、一緒に活動しようという意欲のある方の参加を求めています。いつでも気軽にお問い合わせ下さい。



図9. 捕獲したアメリカザリガニ

●部会の開催

今年度は、6回の部会を開催しました。

日時 4月11日、8月5日、10月17日、11月21日、1月14日、2月17日

今後について

池干しモニタリング調査など継続調査が必要なものは引き続き行います。また、新しいテーマや、調査を基に課題が見つかったものについても調査を行います。また、これまでにデータの蓄積があるものは取りまとめ、知見を広く一般に公開し、生物多様性保全への寄与を図ると

生物情報モニタリングデータベース部会

生物情報モニタリングデータベース部会 部会長・名城大学農学部 橋本 啓史

はじめに

生物情報モニタリングデータベース部会では、協議会の行う生物調査・既存文献・市民の通報などから得たなごやの生物多様性の現況についての情報を集約・一括管理するとともに、集約された生物情報を広く提供するツールとして活用することを目的として、平成23年度からデータベースの構築を行っている。

主な活動内容

なごやの生物情報の市民通報の窓口となるデータベース登録システムと、集約された情報を基に分布（確認）状況を地図上に表現する解析・発信システムを協議会ウェブサイト上で稼働させており、25種の生物の分布情報の収集と7種の分布図の発信を行っている。

生物情報モニタリングデータベースのページ
<http://www.bdnagoya.jp/creature/database.html>

今年度の活動記録

●部会の開催

今年度は2回の部会を開催した。

●生物情報の収集・登録・発信

○市民からの生物情報の収集

協議会のウェブサイト上に設置した『生きもの情報登録フォーム』を使い、広く市民から目撃情報の募集を行った。情報を募集したのは表1に示す25種類の動植物である。また、協議会会員と市民調査員へ4回メールでその時期の注目種をお知らせし、情報提供を呼びかけた。

表1. 情報を募集している生物の一覧

哺乳類	アライグマ、タヌキ、ハクビシン、ヌートリア
鳥類	ソウシチョウ、ツバメ、コシアカツバメ、イワツバメ、コアジサシ
は虫類	ニホンイシガメ、クサガメ、ニホンスッポン、ミシシippアカミミガメ
両生類	ニホンアマガエル、アズマヒキガエル、ウシガエル
魚類	アユ、ニホンウナギ、サツキマス（アマゴ）
昆虫	タイワンタケクマバチ、クマバチ、ムネアカハラビロカマキリ、ハラビロカマキリ
植物	オオキンケイギク、外来スイレン

表2. 種ごとの1年間に情報が寄せられた件数

分類	種名	件数
哺乳類	アライグマ	7
	タヌキ	2
	ハクビシン	1
	ヌートリア	8
鳥類	コシアカツバメ	2
	ソウシチョウ	2
	ツバメ	5
両生類	ニホンアマガエル	1
	ニホンヒキガエル	1
魚類	アユ	2
	ニホンウナギ	1
昆虫類	クマバチ	3
	タイワンタケクマバチ	2
	ハラビロカマキリ	1
	ムネアカハラビロカマキリ	1
植物	オオキンケイギク	8
	外来スイレン	1
	合計	48

今年度は（平成31年4月から令和2年3月26日までに）、48件の情報が寄せられた。昨年度よりは6件増加した。種別ではヌートリアとオオキンケイギクの8件が最多であった（表2）。寄せられた情報は管理者等が確認し、信ぴょう性の低いものを除いて、生物情報モニタリングデータベースに登録し、蓄積している。

なお、ウェブサイト上の『生きもの情報登録

フォーム』から位置情報を登録する際に利用しているグーグルマップAPIの仕様変更が昨年度にあり、その対応策を検討した。

○協議会の調査結果等のデータベースへの登録

データ登録時のエラー確認方法や種のマスターデータの作成・修正について引き続き検討しており、協議会の調査結果等のデータベースへの登録はあまり進んでいない。

○生物情報のウェブサイト上での提供

ウェブサイト上に公開したデータベースに登録した情報を基に、分布（確認）状況を三次メッシュで地図上に表現するシステム（なごや生物情報閲覧システム）の維持・管理を行った。

なごや生物情報閲覧システムを介して広く一般に情報を公開する種は、希少種を除き、ある程度の情報が蓄積された種から順次、システムで情報を公開している。現在公開しているのは、オオキンケイギク、外来スイレン、ヌートリア、ソウシチョウ、ツバメ、ミシシippアカミミガメ、タイワンタケクマバチの計7種である。図1にオオキンケイギクの分布図を示した。

○写真・フィルムのデジタルデータ化およびデータベース作成

寄贈された過去のなごやの自然の写真・フィルムを活用するため、写真・フィルムのデジタルデータ化を進めている。昨年度までにデジタルデータ化した写真の撮影地・対象物・撮影年をデータベース化する作業を進めているが、更に2,000枚近くの過去のなごやの自然の写真・フィルムを追加で寄贈いただいたので、デジタル化に向けた写真の選別を進めている。

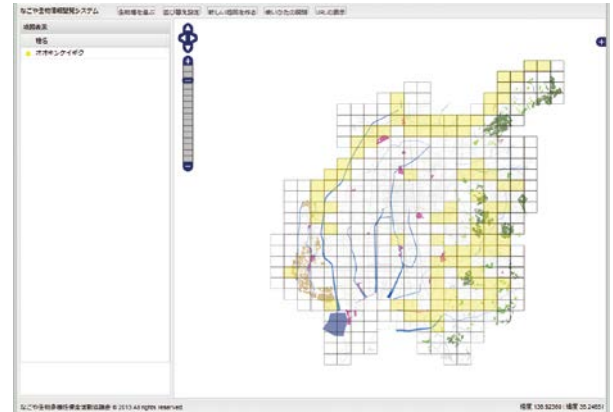


図1. オオキンケイギクの分布図

○空中写真の蓄積（ドローンによる空撮）

今年度は守山区の東谷山周辺での撮影を3月9日に実施した。山火事跡地の撮影の他、サーモカメラによる夜間の哺乳類の撮影を動物部会と共に試みた。撮影された画像は、精査中である。



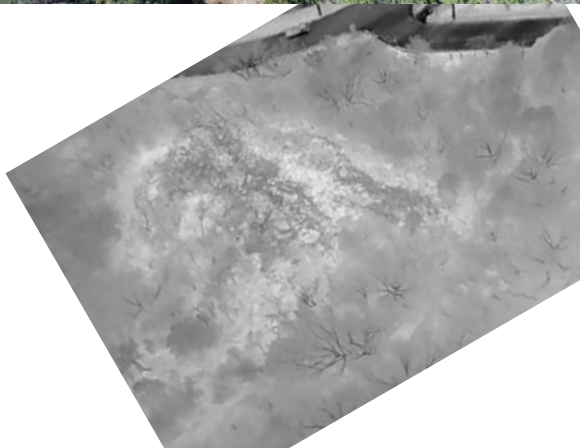
南西側から俯瞰した東谷山全景



東谷山南斜面の山火事跡地の回復状況



ウッドフレンズ森林公園ゴルフ場



東谷山麓の湿地（Y湿地）（上：日中、下：夜間）

結果と今後について

部会での議論により、今後はこれまで通り生物情報の収集・登録・発信をおこなっていく。データベース登録システムの改善についても議論していく。写真・フィルムのデジタルデータ化およびデータベース作成は、追加で寄贈された写真の作業を進めていく。次年度以降のドローンによる空撮対象地は、夜間撮影の成否によって検討する。

オオキンケイギク対策部会

部会長 野中 賢輔

オオキンケイギクとは

オオキンケイギク(学名: *Coreopsis lanceolata*)とは北アメリカ原産のキク科の多年草で、背の高さは30~70cm、毎年5月~7月ごろにコスモスに似た黄色い花を咲かせます。戦後、緑化工事に多く使用されましたが、繁殖力が強すぎて侵略性が問題となり、2005年に特定外来生物に指定されました。

なごや生物多様性保全協議会では2013年に市民200名でオオキンケイギクの名古屋市内分布調査を行い、庄内川や天白川の河川敷に多数分布していることを確認しました。その後、2014年に「オオキンケイギク対策部会」を設立しました。現在の部会員は9名です。



昨年までの主な活動内容

「オオキンケイギク部会」は、2014年初めに駆除実験を行いました。矢田川のふれあい橋付近で①根ごと抜き取る、②根を残して草のみを刈取る、③根を残して花のみを切る、の3つの駆除方法を9週間試行し、再生状況を検証しました。結果的には①の根ごと抜き取り法だけが再生率18%と、駆除効果を確認できました。

①抜き取り法	②刈取り法	③花切り法
再生率18%	826%	161%

2015年度からは、山崎川の河川敷において駆除活動を始めました。名古屋建設業協会とも連携して、市民調査員、部会スタッフで活動してき

ました。4年間の駆除活動実績は表のとおりです。

日付	人数	40L袋
2015年度	延べ216人	93袋
2016年度	延べ211人	153袋
2017年度	延べ48人	26袋
2018年度	延べ173人	36袋
2019年度	延べ140人	23袋

(※2017年度は名建協雨天中止のため少ない)

2019年度の活動報告

5月11日に名古屋建設業協会の活動で山崎川菰山橋南の急斜面密生地に135人投入して抜き取りを行いました。

●市民による抜き取り会

5年間皆が駆除を続けた結果、おかげさまで、山崎川ではオオキンケイギクの繁殖が最盛期の2割以下まで減ってきたので、市民による抜き取り活動は、場所を植田川に変えて生物多様性センターの近隣の河川敷で行いました。5月18日に応募してくれた市民調査員を含む市民合計23人が抜き取り活動をやりました。生物多様性センターで1. 特定外来種について、2. 抜き取り方、3. 見分け方などの説明を聞いてもらい、そして「外来種が悪いのではなく運んできた人間が悪いのだから、ゴメンネと言う気持ちで駆除しましょう」と呼びかけました。



抜き取り場所としたセンターから近く植田川河川敷は、傾斜も緩いので、安全に活動ができ、作業もはかどります。約1時間の活動で、23人で17袋を駆除しました。

抜き取りは根ごと抜き取らねば再生するので、写真のような刃が鋸歯状の「根堀ガマ」を使います。



根堀り用の鎌

● 5月29日～6月末 部会スタッフ

その後6月いっぱいまでオオキンケイギク対策部会のスタッフ数名で、おもに山崎川の昭和区内のオオキンケイギクを駆除していく予定でしたが、今年度は予定日に雷雨注意報のため中止になることが重なり、6月5日のみで活動を中断したことが残念です。異常気象の影響がフィールド活動にも影響してしまいました。

せっかく山崎川におけるオオキンケイギクの繁茂が少なくなってきているので、来年は6月のスタッフ活動もしっかりやりたいです。

● 2月22日 部会スタッフ冬の抜き取り活動

例年、山崎川の萩山橋のあたりには埋土種子が多いのか、大量に再生してしまうため、今年もオオキンケイギク冬の抜き取り活動を継続することにしました。冬期は他の雑草が行政により草刈りされた後なので、花を咲かせていなくても、オオキンケイギクの特徴的な芽や葉のロゼットを見つけやすく抜きやすいのです。

今年度は天候が悪く、冬の抜き取り活動は中止しましたが、山崎川のオオキンケイギクが再び大繁殖しないように、何度埋土種子から芽が出て、まだまだ繰り返し抜いていくつもりです。

今後について

2020年度も継続してオオキンケイギク駆除活動を続ける計画です。

来年度の市民による抜き取り会は、5月16日(土)に猪高緑地に場所を移して行います。興味のある方は「なごや生物多様性保全活動協議会(TEL:052-700-7792)」にお問い合わせください。

山崎川河川敷については傾斜がきつく危険を伴うため、名建協と部会スタッフによる活動を続ける予定です。

「オオキンケイギクは可愛い花だけど、増えすぎて日本の環境には迷惑で、法律でも禁止されている」ということを多くの市民に共有してもらいたいです。



里山林・社寺林部会

長谷川 泰洋 (名古屋産業大学) / 橋本 啓史 (名城大学) / 西部 めぐみ (なごや生物多様性センター)

はじめに

里山林・社寺林部会は、本年度で3年目となりました。本部会は、里山林や社寺林等の樹林地を対象として、その保全管理の効果や植生の質（郷土種の保全状況、希少種、巨樹の分布・生育適地等）の調査を進め、より生物多様性保全に資する保全手法を開発し、啓発に資する知見を集積することを目的にしています。

部会事業は、昨年度の活動を引き継ぐ形で事業①植生のモニタリング調査、事業②希少種の生育環境調査、事業③外来種・郷土種使用の実態及び意識に関するアンケート調査、事業④巨樹・巨木の生育状況調査、事業⑤樹幹解析を行い、新たな事業として、活動3年目となり蓄積されつつある成果をまとめ、効果的に周知・啓発を進めていく事業として、⑥日常生活圏における生物情報の普及啓発手法の検討を追加しました。

このため、①及び④の事業では、千種区を主な調査地として、区別に集中的に調査を行う方法を取り、成果の可視化を検討していくことにしました。また、希少種の生育環境調査においても、調査対象種を絞ることで（今年はクロミノシゴリとザイフリボク）、その種の市内における分布、生育状況を明らかにすることにしました。そのほか、例年通り各緑地の特性に応じた調査活動を展開し、有意義な成果を得ることが出来ました。



クロミノシゴリの花

調査活動の詳細や分析結果は別稿にて報告する予定です。本報告では、各事業の活動状況と主な成果、活動の様子を報告します。

令和元年度の主な活動と成果

事業①：里山・社寺林における植生のモニタリング調査

本年度は千種区内の主要な樹林地を対象として、植物リスト及び代表地点における植生調査を行いました。

期間 2019年8月～9月

場所 茶屋ヶ坂公園、平和公園、見附公園、桃巖寺、蝮ヶ池八幡宮、鉦薬師、城山八幡宮、日泰寺、山神社

活動回数 7回

延べ参加人数 37人

成果 千種区内の主要な樹林地の植物リストを作成しました。対象地内で約220種のリストが作成できました。各緑地に1～数個体ずつしかいない里山の主要構成種が存在することやクロミノシゴリの新たな分布確認、市内初記録となるクリハランの発見（長谷川ら、未発表）もありました。

こうした結果から、各樹林地において特に保全活動が必要な場所を明確にしていきます。



日泰寺の調査



コバノカモメツルの
白花品アズマカモメツル



名古屋市内初記録となった
クリハラシ



温暖化の影響か。千種区内の多くの緑地で植栽木の逸出とみられるホルトノキの実生、幼木が見つかった。
(右上：平和公園、左下：茶屋ヶ坂公園)

事業②：希少種の生育環境調査

(1) クロミノニシゴリとザイフリボクの調査

今年は東海丘陵要素植物のクロミノニシゴリと減少が懸念されるザイフリボクを対象として、

市内の網羅的な分布、個体サイズ、開花・結実状況の調査を行いました。

期間 2019年4月～11月

場所 小幡緑地、明德公園、平和公園、東谷山、蛭池、大高緑地、牧野ヶ池緑地、桃山緑地、相生山緑地、天白溪、天白公園、荒池緑地、茶屋ヶ坂公園

活動回数 52回

延べ参加人数 112人

協働 愛知守山自然の会、NPO法人なごや東山の森づくりの会、名古屋産業大学学生

成果 市内のクロミノニシゴリの分布、個体サイズを網羅的に調査して、約240個体の記録を作成しました。また、里山の常緑樹林化で減少が懸念されるザイフリボクの調査を行いました。ザイフリボクは、明確に確認できたのは9本で、開花は全9個体で見られましたが、結実は3個体（1カ所）のみでした。市内のザイフリボクが想定以上に絶滅危惧の状態であることがわかり、名古屋市版レッドリスト2020においてランクが付くことになりました。



小幡緑地におけるクロミノニシゴリの分布と個体サイズの調査

(2) ササユリの成長調査、生育環境調査

3ヵ年計画で進めてきたササユリ保全プロジェクトの3年目を迎えました。

期間 2019年5月～11月

場所 平和公園、大高緑地

活動回数 8回

延べ参加人数 21人

協働 NPO法人なごや東山の森づくりの会、大高竹の会

成果 大高緑地、平和公園共に、多くの開花個体が見られるようになりました。この3年間で開花個体数はそれぞれ、0個体→16個体（他に花芽が付いた個体が20個体）、3個体→30個体になりました。個体サイズの計測等の調査は今年で終わりますが、開花状況のモニタリングと保全活動は継続し、各緑地で100個体の開花を目指します。



平和公園におけるササユリ調査の様子



大高緑地の個体

事業③：外来種・郷土種使用の実態に関するアンケート調査

昨年度から継続して、市内神社における植栽、駆除活動の実態アンケート調査の集計を進めています。

期間 通年

場所 名古屋産業大学

協働 名古屋産業大学学生

成果 市内神社林でどのような植物が植栽され、駆除されているかを明らかにします。植

栽される樹種としては、クスノキ、サクラ類、サカキ、イチョウなどが多く、駆除対象としては、クスノキ、イチョウ、クロマツ、ツツジなどが多い傾向が見えてきました。植樹して大きく成長したクスノキやイチョウなどを伐っていることが伺えます。都市の神社では、大径木の管理が課題になりつつあることが示唆されます。

事業④：巨樹の生育状況調査

事業①の際に、各緑地の巨樹（胸高直径50cm以上を目安）の個体サイズの計測を行いました。

成果 千種区内にわずかに残る唐山層では、アベマキの巨樹が大変多い傾向が確認されました。また、リンボクの巨樹が確認されました。



城山八幡宮のアベマキの巨樹



千種区見附公園のリンボクの巨樹（右）樹高27.2m、胸高直径59.0cmとアベマキの巨樹（左）樹高27.0m、胸高直径67.5cm。リンボクの巨樹は珍しい。

事業⑤：伐採木の樹幹解析

平和公園ハンノキ湿地周りの除伐木の年輪を調べ、湿地周辺の主要樹種の成長状況を調べました。

期間 2020年1月

場所 平和公園

活動回数 1回

延べ参加人数 4人

成果 平和公園内のハンノキ湿地周辺の樹木の樹幹解析を行いました。ハンノキ、ユリノキ、ソヨゴ、コナラ、ヤマザクラを対象にしています。本年度は、これら樹種の幼木の年輪を数えるために、1m以下を目安として、各樹種の幼木の採取を行いました。

事業⑥：日常生活圏における生物情報の普及啓発手法の検討

事業①、④の調査結果を整理して、見える化しました。本年は、千種区内樹林地調査のリスト及び巨樹リストの作成を行いました。

今後について

今年度から、区別及び希少種別に集中的に植物、植生の実態を明らかにする調査を始めまし

た。その結果、予想を上回る成果を得ることが出来ました。

区別の樹林地における植物リスト（事業①、④の成果）は、地元の保全団体やまちづくり団体等と共有して、連携を図り、保全だけでなくまちづくりや小中学生への生物多様性の普及・啓発活動に活用していきます（事業⑥の今後の展開）。今年度に調査を行った千種区では、特に調査対象地が多かった城山・覚王山地区において、地元のまちづくり団体や区役所等との調整を進めています。

次年度以降も調査対象とする区、希少種を決めて、集中的に調査を行うことで、地域ごとの植物の分布、希少種の生育実態を明らかにし、その成果の活用を図っていきます。

2021年には協議会の設立10周年を迎えます。次年度は、次の10年に向けて、活動の充実とより効果的な啓発、普及（生物多様性の主流化、SDGsへの貢献）を図れるように、着実に成果を積み上げつつ、しっかりと備える1年にしていきます。



キレハノブドウ。千種区内の樹林地で意外とよく見かけた。

なごや生きものの一斉調査2019～ひつつきむし編～

はじめに

「なごや生きものの一斉調査」の目的は、多くの市民の方々に身近な自然や生きものに親しみと関心を持っていただくことです。平成23年から通算9回目を迎えた今回の一斉調査では、人間の衣服や動物に付着する植物の種子「ひつつきむし」を対象としました。

ワーキンググループについて

今回の一斉調査では、協議会幹事のうち植物に詳しい者で構成したワーキンググループ（長谷川泰洋、梅本洋子、小菅崇之、橋本啓史、石原嘉則、佐藤裕美子、事務局）で調査方法等を検討し、子供が楽しめるようタオルにひつつきむしを付着させる調査方法を採用しました。

主な活動内容

●実施体制

- 主 催** なごや生物多様性保全活動協議会
 （事務局：名古屋市環境局
 なごや生物多様性センター内）
- 協 力** 公益財団法人名古屋市みどりの協会
 芹沢 俊介 氏（愛知教育大学名誉教授）
 村松 正雄 氏（愛知植物の会）

●実施内容

(1) 調査リーダー事前講習会

- 日 程** 10月27日（日）、10月28日（月）
- 場 所** なごや生物多様性センター
- 講 師** 芹沢 俊介 氏
- 参加人数** のべ71人

(2) 一斉調査

- 日 程** 11月8日（金）、11月9日（土）、
 11月10日（日）
- 参加人数** のべ227人
- 調査地点** 43地点（補足調査含む）



図1. 調査リーダー事前講習会の様子

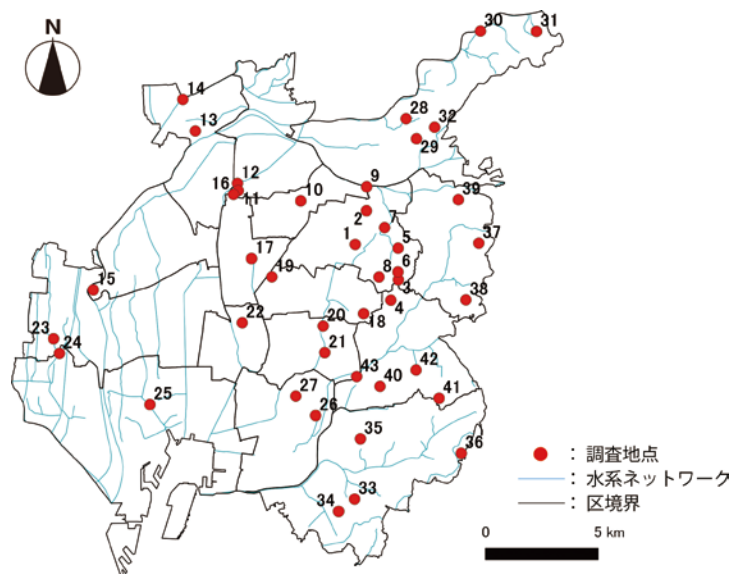


図2. 調査地点

●実施方法

(1) 見つけ採り

調査地内を歩きまわり、目視でひっつきむしを探しました。また、見つけたひっつきむしがどのような場所（林縁や草地、湿地など）に生育しているかを観察し、生育環境の記録も行いました。記録した後、同定用に植物体の一部を採集しました。

(2) 数量調査

ひっつきむしの生育密度を調べるために、調査地内の特定の場所で約10㎡の調査区画を設置し、1枚のタオル（33cm×83cm）に付着するひっつきむしの量（種子数）を調べました。

(3) 同程・観察

(1)および(2)の調査後、同程を実施しました。その際ルーペを用いてトゲなどをよく見ることでひっつく仕組みを観察しました。また、小学生の参加者がいる地点ではひっつきむしを使ってお絵描き遊びも行いました。



図3. 見つけ採り（戸田川緑地）



図4. 数量調査（名古屋大学東山キャンパス）

●調査結果概要

全43地点で27種のひっつきむしを確認することができました。このうち、確認地点の多かった上位10種は表1の通りです。

最も多くの地点で見つかったのは、外来種のアレチヌスビトハギでした。アレチヌスビトハギは普段目にする事が多いひっつきむしの代表格ですが、調査結果を見ても2位のヒナタイノコズチを大きく上回る43地点中41地点で発見されるという結果になりました。

なお、1地点あたり平均6種のひっつきむしを確認することができましたが、一斉調査直前に公園管理の関係で草刈りが実施された調査地が多数あったため、調査当日は1～3種しか確認することができなかった地点がありました。

表1. 一斉調査で確認された上位10種

順位	種名	確認地点数
1	アレチヌスビトハギ	41
2	ヒナタイノコズチ	29
3	コセンダングサ	28
4	チヂミザサ	21
5	アメリカセンダングサ	17
6	ササクサ	17
7	ミズヒキ	17
8	ヒカゲイノコズチ	15
9	オオバコ	12
10	ケチヂミザサ	10

※青字は外来種を示す。

なごや生きもの一斉調査2019～ひつつきむし編～

●調査で見つかったひつつきむし TOP10

1位 アレチヌスビトハギ



2位 ヒナタイノコズチ



3位 コセンダングサ



4位 チヂミザサ



5位 アメリカセンダングサ



6位 ササクサ



7位 ミズヒキ



8位 ヒカゲイノコズチ



9位 オオバコ



10位 ケチヂミザサ



●引っ付く仕組みの観察

今回の調査では、ひっつきむしの種類を調べるだけでなく、どのように動物や人間に引っ付くのか、その仕組みについて参加者に観察してもらいました。一言にひっつきむしといっても、その引っ付く仕組みは様々です。ルーペを使ってよく見ると、アレチヌスビトハギの果実表面にフック状の毛がびっしり生えていることや(図5)、コセンダングサの先端部に逆向きのトゲがあること(図6)、チヂミザサの芒(のぎ)に粘液が出ていることがわかります。このように、拡大しないとわからない引っ付く仕組みの観察を通して、参加者には身近な植物についてより興味を持ってもらうことができました。

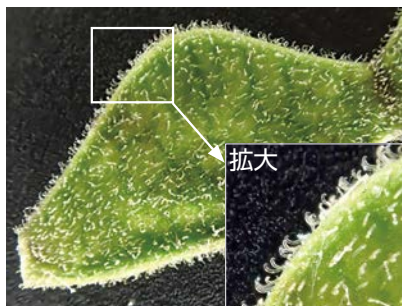


図5. アレチヌスビトハギの種子



図6. コセンダングサの種子

●調査当日の様子

調査では協議会会員がリーダーを務め、多くの市民の方々に参加いただきました。参加いただいた皆様、ありがとうございました！



★調査結果の詳細は「なごや生きもの一斉調査2019～ひっつきむし編～」報告書をご参照ください(以下ウェブサイト内で公開)

なごや生物多様性保全活動協議会ウェブサイト：<http://www.bdnagoya.jp/>

令和2年度の一斉調査は、秋頃にバツタで行う検討を始めています！皆様ふるってご参加ください。

なごや生物多様性サマースクール2019

はじめに

当協議会では生物多様性を知る第一歩として、小中学生を対象に、子どもたちが参加しやすい夏休みを利用して「なごや生物多様性サマースクール」を行っています。

「夏休みの宿題応援します！」をテーマに、子どもたちの夏休みの自由研究の助けとなるよう、協議会会員が指導者となり、専門知識を活かした講座を開催。森や川など身近な自然環境に生息する生きものたちに、直接出会えるフィールドワークから、室内でじっくり学ぶ実習まで、幅広い講座を準備しています。

今まで気付かなかったことや、普段見ることができない世界に、目を輝かせる子どもたち。わくわくする楽しい活動が貴重な体験や学びにつながり、少しでも生物多様性に興味を持ってもらうきっかけとなるよう心がけています。

令和元年度の活動記録

企画名称

なごや生物多様性サマースクール2019

開催期間

令和元年7月20日（土）～8月11日（日）

講座数

全17講座

参加者数

延べ297名

講師人数

延べ69名

① 翠松園緑地の昆虫探し



講師 二つ池の自然と緑を守る会
日時 7月20日（土）10：00～12：00
会場 翠松園緑地
対象 小中学生 定員 25名

② 竹林調査と水鉄砲作り



講師 花水緑の会（大高竹の会）
日時 7月20日（土）9：45～12：00
会場 大高緑地
対象 小学3年以上 定員 20名

③ 身近な木と友だちになろう&標本をつくろう



講師 相生山緑地自然観察会
日時 7月21日（日）10：00～12：00
会場 なごや生物多様性センター
対象 小学4年以上 定員 15名

④ 昆虫生息調査



講師 荒池ふるさとクラブ
日時 7月21日（日）9：30～15：00
会場 荒池緑地・農業センター
対象 小中学生 定員 20名

⑤ 矢田川・香流川の水生生物



講師 名古屋市環境科学調査センター
日時 7月23日（火）9：30～12：00
会場 矢田川・香流川
猪子石工場会議室
対象 小学4年以上 定員 20名

⑥ 調べてみよう！川の生きもの



講師 NPO法人日進野菜塾
日時 7月24日（水）9：45～11：45
会場 日進市・岩藤川
対象 小中学生 定員 30名

7 カマキリ、ザリガニ、貝の外来種を探して



講師 NPO法人なごや東山の森づくりの会
 日時 7月27日(土) 9:30~12:00
 会場 東山の森・里山の家
 対象 小中学生 定員 20名

8 巣箱を作って森に小鳥を呼ぼう!



講師 相生山緑地オアシスの森くらぶ
 日時 7月29日(月) 9:50~12:00
 会場 相生山緑地オアシスの森
 対象 小学4年以上 定員 10名

9 池のプランクトンの世界



講師 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
 名古屋市環境科学調査センター
 日時 7月31日(水) 10:00~15:00
 会場 午前: 茶屋ヶ坂池・緑ヶ池
 午後: なごや生物多様性センター
 対象 小学4年以上 定員 20名

10 甲虫の採集と標本づくり



講師 名古屋昆虫同好会
 日時 8月3日(土) 9:00~15:30
 会場 午前: 猪高緑地
 午後: なごや生物多様性センター
 対象 小中学生 定員 30名

11 チョウの採集と標本づくり



講師 名古屋昆虫同好会
 日時 8月3日(土) 9:00~15:30
 会場 午前: 猪高緑地
 午後: なごや生物多様性センター
 対象 小中学生 定員 30名

12 猪高の池の水質調査



講師 名東自然倶楽部
 日時 8月3日(土) 9:30~12:00
 会場 猪高緑地
 対象 小学4年以上
 定員 20名

13 外来種の昆虫を捕って駆除しよう



講師 なごや外来種を考える会
 日時 8月3日(土) 13:30~15:30
 会場 猪高緑地
 対象 小中学生 定員 20名

14 天白川の水源地を訪ねてみよう



講師 名古屋自然観察会
 日時 8月4日(日) 9:30~12:00
 会場 日進市/岩藤川上流部
 対象 小中学生 定員 20名

15 チリメンモンスターを探せ! In大井



講師 「あいちの海」グリーンマップ
 日時 8月4日(日) 9:00~15:00
 会場 南知多町大井公民館
 対象 小学4年以上 定員 30名

16 大矢川源流域の生きもの調べ



講師 愛知守山自然の会
 日時 8月7日(水) 10:00~12:00
 会場 大矢川源流域
 対象 小中学生 定員 20名

17 子ども向けワークショップ「野鳥探偵」



講師 日本野鳥の会愛知県支部
 日時 8月11日(日) 14:00~16:00
 会場 あいち海上の森センター
 対象 小学生 定員 20名

養老孟司氏 講演会

名古屋昆虫同好会 間野 隆裕

はじめに

なごや生物多様性保全活動協議会（協議会）では、2019年5月19日、名古屋昆虫同好会（名昆）との共催で、「次世代を担う若者へのメッセージ ～昆虫採集を通して培う豊かな人生～」と題して養老孟司氏の講演会を開催しました。ここではその様子についてご報告します。

開催の経緯と演者について

2019年2月当初、とある昆虫関連学会で養老氏の講演を拝聴した後、氏に直接、次世代育成の一助としての講演依頼をしたところ、「子どもたちのお相手ですが、時間が折り合えば、いつでも大丈夫です。」と快諾され、早速箱根の昆虫研究所宅にお邪魔して、単独講演会を開催できる運びとなりました。協議会としても次世代育成というテーマであることから意義深いと考え、共催となりました。養老氏は東京大学医学部名誉教授で、著作『バカの壁』はすこぶる有名ですが、同時にゾウムシ類（昆虫、甲虫目）の研究者で、昆虫に対する情熱は80才を超える今も衰えていません。毎年海外などにも調査に行かれ、別宅には膨大な昆虫標本を収蔵されておられ、その状況は多くの著書やマスコミ報道等でも見られるとおりです。



講演会実施内容

今回の講演の進行は三部構成で、養老氏のお話、トークショー形式でのお話、そして会場からの質問タイムと、進められました。



当初の養老氏のお話では、氏の子供の頃の状況や昆虫採集を始めた動機、虫に惹かれた理由など、依頼してあった内容については全く触れられることなく（苦笑）、ご自身の現在の活動や自然に関する思いなどをフランクに話されました。トークショーでは、氏の海外での自然とのふれあいや昆虫採集の様子をビデオや採集道具などで紹介し、氏の興味ある昆虫研究の具体的内容や自然との共生などに、話がはずみました。

子供の誕生日プレゼントには何が良いかとの母親からの質問には、「ルーペが良い」との的確な助言や、とある外国の劣悪な自然保護行政についての漢詩をもじった話、また自身が解剖学を専攻したくだけりでは、甲虫標本の扱いとの共通性を感じさせるなど、幅広い見識に裏打ちされた洞察力を感じました。

当日は先着240名募集でしたが、募集後10日ほどで定員数を上回る状況でしたので、お断りした多くの申込者には大変申し訳なかったと痛感しております。ただ、今回の主目的から、次世代を担うべき若者には、養老氏のより近くで意見交換などをしていただきたいとの思いから、で



きるだけコンパクトにしたいと考えておりました。ただ、おそらく参加希望者が多いとの推測もあり、今回の会場の大きさとなりました。その甲斐もあり参加者で会場が一杯となり、多くの質問もいただき、養老氏の人間味あふれる性格にも触れることができ楽しい講演会となりました。

あいち・なごや生物多様性EXPO

はじめに

2020年は「国連生物多様性の10年（2011年～2020年）」の最終年にあたり、全国の取組成果を広く共有・発信していくイベント「せいかりレー」が行われている。「生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）」が開催された名古屋市で、そのキックオフイベント「あいち・なごや生物多様性EXPO」が行われ、当協議会もシンポジウム、分科会、ブース出展に参加した。

また、当協議会の活動がイベントの主催者である国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）の認定連携事業として表彰された。

EXPOに参加するに当たって、協議会幹事のうち各部会の部会長など主要なメンバーでワーキンググループ（長谷川泰洋、梅本洋子、小菅崇之、橋本啓史、矢部 隆、榊原 靖、野中賢輔、眞弓浩二、石原嘉則、大沼淳一、瀧川正子、間野隆裕、事務局）を編成し、発表内容や展示内容を検討した。

イベントの概要

主催 国連生物多様性の10年日本委員会、環境省、愛知県、名古屋市

日程 令和2年1月11日（土）・12日（日）

場所 名古屋国際会議場

シンポジウム

日程 令和2年1月11日（土）

場所 名古屋国際会議場センチュリーホール

内容 さかなクンの基調講演の後、あいち・なごやの取組事例として4つの団体（愛知商業高校ユネスコクラブ、命をつなぐプロジェクト、ソニーの森、なごや生物多様性保全活動協議会）が活動内容を紹介した。その後、SKE48の2名、MAG！C☆PRINCEの2名を交えてパネルディス

カッションを行った。当協議会は池干し、一斉調査、サマースクールなどの活動を紹介した。シンポジウムには約1,700人が参加した。それに続いて、当協議会の活動がUNDB-J認定連携事業として表彰を受けた。



シンポジウムにおける取組紹介で、会長が登壇した



シンポジウムのパネルディスカッション

分科会

日程 令和2年1月12日（日）

場所 名古屋国際会議場レセプションホール

内容 4つの分科会が行われ、そのうちの「多様な主体の連携」をテーマとした分科会に参加した。6つの団体（トヨタ車体㈱、知多半島生態系ネットワーク協議会、愛

知大学学生地域貢献事業グループ森の子、なごや環境大学実行委員会、環境パートナーシップ・CLUB（EPOC）、なごや生物多様性保全活動協議会）が参加して事例紹介を行い、その後、千頭聡氏（日本福祉大学教授）がコーディネーターを務めてパネルディスカッションを行った。当協議会は協議会の概要、設立の経緯、市民らと連携して行っている池干し等の活動を紹介した。この分科会には112人が参加した。各分科会での意見が「あいちなごや宣言」に盛り込まれた。

ブース出展

- 日程** 令和2年1月11日（土）12日（日）
- 場所** 名古屋国際会議場イベントホール
- 内容** 73区画のブースで展示が行われ、約4,000人が来場した。当協議会は主な事業（池干し、一斉調査、サマースクール等）のパネルを展示するとともに、「かいぼりを通して学ぶ生物多様性（東山新池）」の映像やカワバタモロコの生体展示により当協議会の活動を紹介した。また、「活動報告書」、「一斉調査報告書」及び「なごや生物多様性ガイドブック」を閲覧または配布した。クロージングでは各ブースの代表者がステージに登壇して決意表明を行った。当協議会は「生物多様性の保全で豊かななごやへ！市民・行政・企業・学校等の協働の力で！！」と表明した。



協議会ブース



クロージング

(左から3人目：当協議会、2人目：なごや生物多様性センター)

定例会

はじめに

定例会は、協議会メンバーの親睦を深めるため「お互いを知ろう」、「お互いに学び合おう」をテーマに平成24年10月から始まりました。

平成27年度までは毎月1回の開催でしたが、28年度から偶数月の第1水曜日と、2ヶ月に1回の開催に変更となりました。スピーカーの選出は、各月の担当幹事が決めます。幹事自身がスピーカーとなったり、紹介したいと思う方を招いて、自分達の活動の紹介や、研究しているテーマなどをお話ししていただいています。

開始当初は協議会メンバーに限られていましたが、今は市民調査員や一般の方も参加できるようになっています。日頃聞くことのできないディープな内容のお話を、スピーカーの方からわかりやすく解説していただける機会はなかなかありません。そんなこともあってか、毎回この会を楽しみにしている常連さんも増え、時に

は大学生ばかりでなく小学生まで参加される事もあり、この会の広がりを感じています。

今年度も偶数月の第1水曜日、午後7時から、場所はなごや生物多様性センターの会議室で開催します。皆さんの参加をお待ちしております。

また、スピーカーとしてお話ししていただける方も募集しております。



図. 定例会の様子

●開催実績（平成31年4月～令和2年3月まで）

回	月日	発表者	内容	参加人数
60	4/3	担当幹事 石原則義（愛知守山自然の会）		29
		地学研究者	村松憲一 愛知のジオサイトあれこれ	
61	6/5	担当幹事 石原則義（愛知守山自然の会）		21
		愛知県環境審議会専門調査員	中西 正 愛知県の植生とその特色	
62	8/7	日本オオカミ協会東海支部	寺西久慈 ①生物多様性保全活動に関わる獣害対策	39
		名古屋昆虫同好会	間野隆裕 ②外来種導入について	
63	11/6	担当幹事 小菅崇之（個人会員）		30
		なごや生物多様性保全活動協議会	小菅崇之 水草の域外保全とインターネット上での生物の告知活動	
64	12/4	なごや生物多様性センター	野呂達哉 名古屋における外来種防除の10年-アカミミガメの防除活動から見た成果と課題-	28
65	2/5	立教大学文学部	野中健一 ①“ヘボ”がごちそう!?	20
		名古屋大学	新開一馬 ②ヘボの研究をする名大生	

会員活動支援

なごや生物多様性保全活動協議会では、協議会会員が行う地域活動に対し、その活動の活性化と、それを通じたなごやの生物多様性の保全を目的に、活動支援を行っています。支援内容は以下のとおりです。

- ▶ 調査機材の貸出
- ▶ 講師・専門家等の派遣やそれに伴う会場借上げにかかる費用負担
(調整等は会員が実施、協議会は費用を負担。1件あたり上限30万円相当)
- ▶ 市民生きもの調査員への催事案内(月1回/メール・ファックス)

令和元年度は、以下の活動について支援を行いました。

令和元年度 活動一覧

実施団体・個人名 (敬称略)	活動内容
荒池ふるさとクラブ	荒池緑地 昆虫生息調査・水辺の生きもの調査
寺本匡寛	熱田神宮におけるアリ調査
名古屋自然観察会	生物(植物)・分類生態研修会報告
名古屋昆虫同好会	講演会開催

上記以外にも、25件の物品の貸出を行いました。

●令和元年度 市民調査員への催事案内件数

月	H31年 4月	R1年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R2年 1月	2月	3月
件数	4	4	1	2	1	2	5	9	4	4	2	2

熱田神宮におけるアリ調査

(個人会員) 寺本 匡寛

はじめに

熱田の森（熱田神宮）での体験活動・奉仕活動を通して、自然に親しみ博愛のこころを育てることを目的に、名古屋市内唯一の団体「宮の森みどりの少年団」が平成16年に結成された。

現在、全国各地で緑や水をはじめ貴重な自然を守るため「緑の少年団」が結成されており、その数は平成28年1月、全国で3,421団体、約33万名と公表されている。愛知県下では80団体、約4,300名、名古屋市内では1団体、小中学生の35名が活動している。「宮の森みどりの少年団」は愛知県で最も精力的に活動を行っている「緑の少年団」であり、その活動の一環として10月に「生物の勉強」の講師としてアリの調査を行ったものである。

調査方法

調査は、熱田神宮文化殿（寶物館）の東側の広場と林内において、当協議会が2018年に実施した「なごや生きもの一斉調査2018アリ編」に準じて行った。

調査日 2019年10月6日（日）

調査時間 9：00～12：00（実質調査時間1H）

参加者 14名（内子ども6人）

調査結果

クロオオアリ、クロヤマアリ、アメイロアリ、サクラアリ、ハリブトシリアゲアリ、キイロシリアゲアリ、オオズアリ、アミメアリ、ウロコアリ、ハリナガムネボソアリ、オオハリアリの計11種のアリが確認された。

なお本結果は、日本自然保護協会が毎年、しらべるテーマを変えながら実施する自然しらべ（子どもからお年寄りまで誰もが気軽に参加できる「日本の自然の健康診断調査」）の「自然しらべ2019 全国アリしらべ！」に共有させて

頂いた。



▲調査状況

まとめ

熱田神宮の敷地面積は19haと広大で278種もの植物種が確認されている。今回調査を行った範囲は、ほんの一部に過ぎないため、場所と環境を代えて調査すれば今回確認された以上のアリが確認されると考えられる。今回確認されなかったが、「なごや生きもの一斉調査2018アリ編」で37箇所中、近隣の熱田神宮公園にのみハヤシムネボソアリが確認されており、本種も熱田神宮に生息している可能性がある。また、秋によくみられるクロナガアリなど調査時期を代えて調査すればさらに種数が増える可能性がある。

参加者からは、アリの動きが素早くなかなか採ることができなかったが、楽しかったとの感想をいただいた。どこにでもいる身近な生物であるにも関わらず、普段ほとんど注目することがない「アリ」を対象にすることは、身近な自然に親しみと関心を持って貰うツールとして優れていると考えられた。今後、学校などの環境教育や、環境保全団体などにおいて環境学習ツールとしての活用が望まれる。

生物（植物）分類・生態研修会報告

（名古屋自然観察会）石原 則義

はじめに

生物（植物）分類生態研修会が11月30日（祝）庄内緑地グリーンプラザで行われました。

講師は岐阜大学流域圏科学研究センター准教授津田智氏にお願いしました。演題は「火と植物との不思議な関係」です。聴衆は45名。

火には、焼き畑、山火事（山焼き）、野焼きの三つがあるとのこと。最も長時間高温が継続するのが焼き畑で、温度が上がらないのが野焼き、その両者の中間が山火事（山焼き）となります。

焼き畑、山火事（山焼き）、野焼きは植物が吸収した炭素がもう一度、二酸化炭素になるだけなので、結果的には二酸化炭素は増加せず地球温暖化の原因になりません。

昇しないため地表の温度が上がりにくいです。そのため種子や地下茎は生きています。逆に加熱処理をしたクズやヤマハギの種子の発芽率は上がります。

草原を定期的に野焼きすると、栄養塩類を増やすだけでなく、外来種がつけいることのできない環境になり外来種が減り、絶滅危惧種が増えて質の高い草原になり生物の多様性が高くなります。



図1. 「火と植物との不思議な関係」研修会

調査結果

●焼き畑

焼き畑は時速10mで焚き火をやり続ける状態なので地表の高温状態が維持され温度計も壊れてしまう過酷な状態です。その結果、地表の生物は焼死します。しかし、病害虫が焼かれ栄養塩類が増え無肥料での農業ができるので環境には優しい農業です。

●山焼き

山焼きを行うと外来種が減るだけでなく栄養塩類が増え、まだ原因は解明されていませんが、花が咲くようになり花つきが良くなります。植物の中には火事を積極的に利用する戦略を立てている植物があります。また種子の発芽が増え、今までいなかった絶滅危惧種が復活しています。

●野焼き

野焼きは、一見熱く厳しいように見えますが、風まかせですぐに炎は通過するので、高温が継続される時間が短く、地下の温度はほとんど上

まとめ

ファイアーエコロジーからみると火入れは自然再生に良い影響を与えていますが誤解されており、山焼きや野焼きをやる人は絶えず責任を追及され理解されていないのが現状です。

それに対して化石燃料を燃やすと埋蔵されていた炭素が二酸化炭素になって大気中に放出されるので地球温暖化が促進されます。

今まで山火事は環境に悪いものと思ってきましたが、今回の研修会では、山火事そのものが「生物にとって一つの環境要素」であり条件さえそろえば自然に優しい環境だと分かりました。

はじめに

名古屋昆虫同好会では、毎年総会席上、各地の専門家を招いて講演会を開催しています。

今年は、昨年に引き続き会員助成金を活用させて頂き、以下の通り実施しました。

講演会実施内容

●今田 弓女 氏 講演会

2020年1月19日(日)、名古屋市中小企業振興会館(吹上ホール)において、「虫と植物の知恵くらべ～多様性と進化の物語を読み



解く」と題して、今田弓女(いまだゆめ)氏に講演をして頂きました。

今田氏は、1988年東京都生まれ。京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程を修了、博士(人間・環境学)を取得後、日本学術振興会特別研究員となり、また2017年からはスミソニアン研究所国立自然史博物館古生物学研究部門の研究員となり、植物化石を使って過去の生物間相互作用を調べる研究をされています。大学2年時に海外の学会に投稿した論文が、ネイチャーで紹介されるなど、若干31歳ながら極めて優秀な研究者で、昆虫関係のみならず様々な学会から講演者として招聘されています。

氏は、小学生の時から昆虫を好きになり、そのうち「その背後にある目に見えない進化」のストーリーにはもっと興味を惹かれるようになったそうです。大学では昼夜研究に励む先生方や学生の方々と生物について語りあうとともに海や山へ出かけてフィールドワークの必要性を痛感されました。大学院終了後アメリカに留学

して、絶滅した生物の生態を調べる「古生態学」という分野に飛び込み、化石の視点から生物の進化について時代を追って理解しようと試みしました。

初めて取り組んだ原始的なガの仲間「コバネガ」の進化研究では、継続研究によってコバネガなどの小さな虫と原始的な植物であるコケの関係について少しずつ分かりつつあり、ハエやガガンボの研究でも「植物は、4億年という長い進化の歴史のなかで、いかに昆虫や他の生物と関わってきたか？」を研究テーマとして来られました。

講演では、身近に広がっているコケ群集の中で生きる小さな昆虫を、分類し生態を解明していく中から、地史的な背景も踏まえた群集間の関係をひも解いていくという研究内容に触れるとともに、昆虫の研究の楽しさ・難しさ・やりがいについて、貴重なお話をいただきました。その眼差しは常に研究対象である生き物目線で、優しい中にも鋭い研究に対する姿勢を感じることができ、素晴らしい講演でした。

当日は120名の参加者があり、会場が一杯となるほどの大盛況でした。



地域活動支援

なごや生物多様性保全活動協議会では、協議会会員以外の地域団体による、なごやの生物多様性の保全を目的とした活動についても、調査機材の貸出を行っております。また、必要に応じて、現場指導や生物の同定などの支援も行っています。

令和元年度は、以下の活動について支援を行いました。

令和元年度 活動一覧

実施団体名 (敬称略)	活動内容
牧野ヶ池緑地保全協議会	牧野ヶ池移入種スイレン抜根調査
名古屋経済大学高蔵高等学校・中学校理科部	山崎川生物調査活動
細口池生きもの復活クラブ	細口池の生きもの復活作戦

牧野ヶ池移入種スイレン抜根調査

(所属) 牧野ヶ池緑地保全協議会 巾 賢治

はじめに

牧野ヶ池緑地保全の一環として、スイレン抜根調査、ミニ里山体験、緑地まつり、生き物調査、観察会、小学校の環境教育などを通して緑地の保全に寄与しています。

調査結果

竹林のタケノコ堀の一般開放にともなうコクランの53株消滅、オオスズメバチによるニホンミツバチの消滅、ホンダタヌキのかいせん病による末期症状、新たにヌートリアの出現など自然環境が年々悪化している。



6月



11月



タヌキのかいせん病



居着いてしまうヌートリア



総合学習3年生

まとめ

オオタカや水鳥の休憩地の近くに散策路を設置にするなど、緑地来場者優先の公園づくりになりつつある。また、県がタケノコ堀の一般開放を実施しているため、根の浅いラン類の消滅が目立っている反面、スイレン抜根調査は、年4回実施し、少しずつですが、成果は上がっています。

様々な問題や課題がありますが、たずさわって行くことが唯一の解決策で一歩が前進と考えています。

細口池生きもの復活クラブ活動報告 2019

細口池生きもの復活クラブ 代表 浅井 正明

はじめに

●ツバメのねぐら復活2年目



2019.12月



ねぐら入りしたツバメたち

細口池生きもの復活クラブは、活動を始めて6年が経過しました。ヒメガマとヘドロの除去が進み、池面積の50%のヨシ原が維持されています。今年7月8日にねぐら

入りが確認され、10月上旬までねぐらに利用されました。8月に生きもの調査を多くの子どもたちと行い、捕獲した外来生物を除去しました。

活動結果



再生したヨシ原

調査及び保全作業は、毎月1回の定例活動と若干名による随時活動と清掃を行いました。

●定例活動：毎月第2土曜日 会員数17名

活動日	活動内容
4月13日	ヨシ刈取り7人、清掃
5月11日	池の生きもの観察、清掃
6月8日 22日	ヒメガマ刈取り、ヤナギ除去6人 ヒメガマ除去、ヤナギ除去
7月13日 8日	ヒメガマ・ヤナギ除去5人 ツバメねぐら入り観察開始
8月23日 24日	カメワナ・モンドリの設置、生物調査・解説及び特定外来種除去50人
9月14日 24日	ヒメガマ除去5人 浮島型カメワナ設置4人
10月12日	台風のため作業中止
11月9日	ヒメガマ刈取り・除去、清掃7人
12月21日	活動報告会16人
1月11日	水鳥の生息調査

●随時活動

活動日	活動内容
4月1日～ 月1～2回程度	ヒメガマの根茎除去・ヒメガマの刈取り、根茎の片づけ
月2回程度	池内清掃、排水口清掃40人

●生物調査結果：8/23・24に実施、参加者50名

調査はカメワナ、モンドリ、ガサガサを使って捕獲調査をしました。クサガメ大1、モクズガニ成体3、フナの仲間6、ドジョウ1、モツゴ多数、在来種は増加しましたが、一方コイ、カダヤシ、ウシガエル、アメリカザリガニが多数確認された。特定外来生物は処分しました。



●7年間で確認された種

分類群	種名
魚類	ドジョウの仲間、フナの仲間、モツゴ、トウヨシノボリ、カダヤシ、コイ
甲殻類	モクズガニ、スジエビ、アメリカザリガニ、ミナミヌマエビ
は虫類	クサガメ、ニホンイシガメ、ミシシippアカミミガメ
両生類	ウシガエル(幼体多数、成体)
鳥類	バン、オオバン、アオサギ、コサギ、カルガモ、オオヨシキリ、カワセミ、ツバメ、コガモ、セグロセキレイ、ハクセキレイ、カイツブリ、ダイサギ、ヨシゴイ、カワラヒワ、カワウ、クイナ、ヒクイナ、オオジュリン、スズメ
昆虫類	ヒメミズカマキリ、ギンヤンマ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、チョウトンボ、ウスバキトンボ、コシアキトンボ、ショウジョウトンボ、クロイトトンボ、アジアイトトンボ

●湧水か所の保全

湧水個所を観察し湧水状況を調査し確認しました。水質の成分調査が課題となっています。

まとめ

6年間、ヒメガマとヘドロを除去した結果、ヨシの生育域と水域が増進し、ヨシは池面積の50%、水面は40%を占めるまでになりました。昨年、ツバメのねぐらが復活し、今年7月8日にねぐら入りを確認し10月上旬までねぐらとなりました。毎日池で観賞する人々が見られました。野鳥はオオバン・バン・カイツブリ・コガモ・カルガモ・オオジュリンが多く見られ、再生したヨシの穂をスズメの大群が餌場に使っています。今後、生きもの調査を継続し生物多様性の向上を目指します。

助成金事業

なごや生物多様性保全活動協議会では、自然環境保全の後継者育成を目的とする活動や新たに取り組まれる保全活動を支援することで、次世代の担い手づくりや新たな活動の創出を応援しています。

開始から5年目にあたる令和元年度は、6件の助成を行いました。

令和元年度 活動一覧

実施団体名（敬称略）	活動内容
名古屋昆虫同好会	次世代育成事業「親子で楽しむ昆虫調査会」
エコレク部（名古屋産業大学部活動）	生物多様性情報の発信媒体（カードゲーム、生態系、web図鑑）開発プロジェクト
ツル研（鶴舞公園研究会）	ツルマプロジェクト
愛知県立木曾川高等学校 総合実務部	国の天然記念物「イタセンパラ」の保護に繋がる活動
東邦高校 科学研究部	東邦高校近隣におけるブルーギル捕獲と透明標本の制作
南山高等・中学校男子部 理科部生物班	南山高等・中学校男子部理科部生物班の活動

次世代育成事業「親子で楽しむ昆虫調査会」

名古屋昆虫同好会 企画幹事 大野 康司

はじめに

名古屋昆虫同好会では、2015年から助成金を活用させていただいて子供向けに「昆虫採集・標本作成教室」を毎年開催してまいりました。

2019年は、昨年につき「親子で楽しむ昆虫調査会」を開催しました。

開催概要

今回も募集人数を大幅に超える32組74名もの皆様からご応募いただき、抽選の結果24組55名の方々にご参加いただきました。

●第1回猪高緑地公園（6／8）

里山でよく見かける昆虫を求めて、猪高緑地公園で採集会を実施。前日まで雨で、樹液が流れたり苦戦したものの樹皮下に潜むコクワガタ・ネブトクワガタ・ノコギリクワガタなど観察・採集できた。

●第2回駒ヶ根高原（7／20-21）

第二回は、駒ヶ根高原で一泊二日の採集・標本作成会を実施。天候が今一つでしたが、「ライトトラップ」では、クワガタは少ないものの、蛾、甲虫、セミ、トンボ、ハチなど、数多くの虫が飛来し、親御さん、子供たちも夜遅くまで熱心に観察・採集を続けていた。

●第3回標本作成・同定会（8／18）

第三回は、夏休み期間中に各自で採集した昆虫の同定・標本作成会を、任意参加で実施。

27名の参加で、じっくりと標本に向き合い、少し突っ込んだ話ができたり、参加者同士の交流が深まったと思います。

●第4回平和公園くらしの森（10／5）

第四回は、秋の虫を探索することを目的に、平和公園くらしの森で、主にバッタ、コオロギ、カ

マキリなどを採集・観察しました。

最後に行った「全会を通じての感想発表会」では、学校に提出した自由研究を持参するお子さんもいて、多少なりともお役に立ったのではと自負しています。



写真1. 駒ヶ根高原



写真2. 駒ヶ根高原



写真3. 標本作成・同定会

参加者からの評価と新規入会

ご参加のみなさんから「非常に良かった」15組・「良かった」3組（それ以外なし）と高く評価。

この事業のお陰で、直近5年間の名古屋昆虫同好会の新規入会員数は74名となりました。

表1. 名古屋昆虫同好会 新規入会員数

2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	計
5名	11名	21名	27名	10名	74名

生物多様性情報の発信媒体(カードゲーム、生態系web図鑑) 開発プロジェクト

名古屋産業大学 エコレク部 (Ecology & Recreation)

背景・目的

名古屋産業大学エコレク部は、生物多様性情報の発信媒体(カードゲーム、生態系web図鑑) 開発プロジェクトを進めています。

生物多様性カードゲームの目的は、小中高生が遊びながら、生物多様性を学べる教材として、生物多様性及び生態系をテーマとしたカードゲームを開発、作成することです。大学生の中には、カードゲームで遊んだことで自然環境や化学に興味を持った学生が少なく、楽しく遊びながら生物多様性を学べるカードゲームがあれば、若者世代の関心を高めていくために、非常に有効だと考えられます。

生態系web図鑑の目的は、里山を散策しながら、スマートフォンで簡単に生態系と生物情報を閲覧できる仕組みを開発することです。生物のみでなく生育環境となる生態系も紹介する新たな試みのweb図鑑を考えています。3年間プロジェクトの1年目の成果の概要を報告します。

方法・成果

①生物多様性カードゲーム

部員同士で様々なカードゲームなどを参考に議論をした結果、MyEarth[®]による「マイアース」とSAPIX環境教育センターによる「マイネイチャー」をベースとして、東海地方の動植物、生態系を使用したカードゲームを試作することになりました。

東海地方の生き物は、愛知県自然環境課が発行しているモニタリングハンドブック及び財団法人三菱UFJ環境財団が発行しているなごやの環境指標種100などを参考に、表1の生き物を選定し、検討を進めています。これに対して、専門家へのヒアリングを行い、決定していきます。

②生態系web図鑑

大学から徒歩10分の所にある寺田地区におい

表1. カードゲームに用いる動植物(案)

在来生物	外来生物
オミナエシ	セイタカアワダチソウ
ササユリ	オオキンケイギク
ヒメカンアオイ	ホトアオイ
アサザ	ムネアカハバラビロカマキリ
エンジュウムヨウラン	クビアカツヤカミキリ
モウセンゴケ類	スマトラオオヒラタクワガタ
ゴマダラチョウ	カダヤシ
ジャコウアゲハ	オオクチバス
オオムラサキ	ワシガエル
ヒラタクワガタ	ミシシッピアカミミガメ
ノコギリクワガタ	ソウシチョウ
メダカ	アライグマ
アカガエル	ヌートリア
ニホンイシガメ	
マムシ	
脊椎動物	
オオルリ	
ウグイス	
ホンダキツネ	
タヌキ	
ニホンカモシカ	
カヤネズミ	

て、5月~10月に月2回程度、決まったコースを歩いて写真を撮影するルートセンサス調査を行いました。鳥類、爬虫類、両性類、昆虫の成虫、開花した植物を対象に発見された種は全て撮影し、写真を基に同定をしてデータを作成しました(表2)。

現在、この写真やデータを現地の景観写真や動画に結び付けて、生態系と共に生物を紹介する画像(図1)、映像の作成を試みています。この作業は、動画作成サークル「NSUスタジオ」の協力を得ながら進めています。

表2. 5月に寺田で観察した動物

日付	科名	種名	学名	分布
5月9日	シリアゲムシ科sp	シリアゲムシ		B
5月9日	アトウシ科	ナナホシアトウ	<i>Coccinella septempunctata</i>	A
5月9日	カミキリムシ科	ホタルカミキリ	<i>Dere tharacina</i>	B
5月9日	カミキリモドキ科sp	カミキリモドキ		B
5月9日	カミキリ科	キタスイカミキリ	<i>Phytobia rufiventris</i>	A
5月9日	ハナアブ科	ホンヒラタアブ	<i>Episyphus balthicus</i>	A
5月16日	カナヘビ科	ニホンカナヘビ	<i>Takydromus tachydromoides</i>	A
5月16日	セセリチョウ科	ダイミョウセセリ	<i>Dainio thys</i>	A
5月16日	タテハチョウ科	サトキマダラヒカゲ	<i>Neope goschkevitschii</i>	C
5月16日	キリギリス科	クビキリギリス	<i>Euconocephalus valisus</i>	A
5月16日	ササキリモドキ科sp	ササキリモドキ		D
5月16日	トンボ科	シオカラトンボ	<i>Oribetrum alicyllum speciosum</i>	B
5月16日	キリギリス科	ヒメギス	<i>Eobiana engelhardtsi</i>	A
5月16日	アカガエル科	ニホンアカガエル	<i>Rana japonica</i>	A
5月16日	クロバエ科	ミドリギンバエ	<i>Lucilia illustris</i>	A



図1. 7月には県のモニタリング指標種のキイトンボも見られた

はじめに

名古屋市を中心に位置する鶴舞公園は、河川の浚渫土砂で埋め立てた地盤上に造成されたものである。園内の植物は、公園利用者の多岐にわたる活用に影響を受けながらも大きく育ち、現在では多様な生物が生息するようになっている。

当研究会は、植物や動物等の生態や、公園利用者の行動実態を調査し、その関係性や、人間の公園利活用が生物の多様性に与える影響を探り、公園利活用の今後のあり方等についての方角性を見出すことを目的として3年間計画で活動しているものである。

調査内容（一部抜粋）

【公園出入り調査】

主要な出入口6カ所を対象に、出入りする人の属性ごとに人数を数えた。公園の利用は平日と休日で大きく異なることが想定されるため、調査日を平日と休日に設定した。また、調査時間帯は通勤時間帯や夕食以降の夜の時間帯は除き日中として、6時間帯に分けて各時間帯で10分間記録した。

【利用実態調査】

鶴舞公園を利用者の属性、用途、人数が異なると考えられる9つのエリアに分けて、利用状況を記録した。調査日は季節別に平日と休日を対象として、日中を6時間帯に分けて、各時間帯30分間、利用状況を記録した。

調査結果（一部抜粋）

【公園出入り調査】

出入口Aの平日午前の入は、専門・大学生が55%以上と多く（約80人）、出入口Hの平日午前の出は、専門・大学生が65%（約40人）と多いことから、平日午前中は、専門・大学生がAから入りHから出ていく（そして、名工大や専門学校に行く）という明確な流れが出来ていると考えられる。

【利用実態調査】

エリアCだけ見ても、季節別に比較すると、

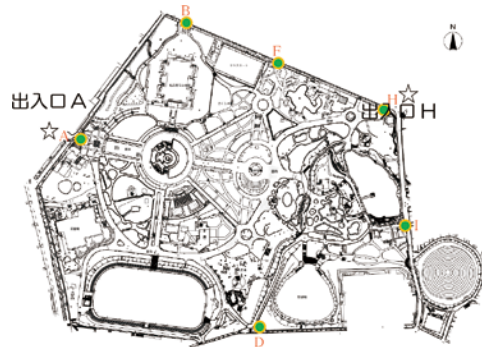


図1. 調査した出入口

各種項目について明確な違いが見えてきた。春のデータを抜粋すると、平日午後の利用人数は162人で、この中には、運動場を使った人数は64人（サッカー52人、観戦12人）で、運動場以外（座る、会話、食事、散歩など）を使った人数は98人だった。運動場利用人数と休憩散歩区域人数割合は、1：1.5程度だった。

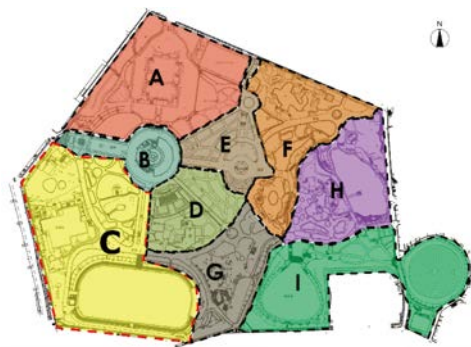


図2. 利用実態調査のエリア分け

今後の活動

活動1年目の今回は、データの収集も経過途中となっているが、今後も多くの調査項目について引き続きデータ収集に努め、公園利活用の活性化と生物多様性保全の考察に結び付けていきたい。また、今後も大学生を中心とした調査を行い、自然環境保全の後継者育成に努めたい。

国の天然記念物「木曽川のイタセンパラ」の保護に繋がる活動

(愛知県立木曽川高等学校総合実務部顧問) 堀場 弘市

はじめに

木曽川高校の生物部は、1973年からイタセンパラの生態調査や生息地調査を始め、木曽川中流域などで11か所の生息地を確認し、保護活動を始めた。イタセンパラは、1974年に国の天然記念物に指定され、保護活動がおこなわれたが、1995年には木曽川のイタセンパラは絶滅したと考えられた。2005年に木曽川中流域でイタセンパラが発見され、国や地域、有識者を中心に保護活動が始まった。2015年3月に一宮市の玉ノ井地区に人工ワンドが完成したことがきっかけで、本校の総合実務部がイタセンパラの保護・広報活動を始めた。

総合実務部では、「国の天然記念物 木曽川のイタセンパラを地域の宝に」を合言葉に、部員が、「高校生の私たちにできる活動内容」を考え、保護・広報活動に勤しんでいる。

●保護につながる活動の3本柱

- ①イタセンパラの調査・研究と学習会への参加
- ②アンケート調査、学習会や各種大会でのプレゼンテーション等による広報活動
- ③生息地である木曽川のワンドやたまりの保全活動（周辺の除草・清掃活動）

活動内容と結果

●1本目の柱：調査・研究と学習会への参加

環境省やイタセンパラ保護連絡協議会等の団体が主催するイタセンパラ学習会や研究会に参加し、知識を深めることができた。

- ・大阪府寝屋川市の生物多様性センター、名古屋市東山動植物園めだか館、愛知県碧南市の碧南海浜水族館等で、イタセンパラの生態や現状についての調査研究と学習会への参加。
- ・国土交通省主催の木曽川人工ワンド（一宮市）の二枚貝調査に参加。ヌートリア等による捕食被害の状況を調査・集計・発表。
- ・木曽川イタセンパラ保護協議会主催の木曽川

合同パトロール活動に参加。



図1. 木曽川での二枚貝調査

●2本目の柱：認知度を高めるための広報活動

アンケート調査により、地域別、年齢別、性別のイタセンパラに関する認知度を把握。若い世代(小学生)への広報活動のため、図2. イタセンパラかるた大会の道具として「イタセンパラかるた」を制作し、小学校や児童館等でのかるた大会を開催。また、環境省主催のイタセンパラ学習会や日本水産学会、日本動物学会、日本生態学会等が主催する大会や発表会で本校のイタセンパラの保護につながる活動を紹介することで認知度を高めた。



●3本目の柱：ワンドやたまりの保全活動

総合実務部では、一宮市の起・富田地区にある木曽川の人工ワンド（イタセンパラの生息地）の周辺の除草・清掃活動を月に一回実施。また、平成29年度と30年度は、5月に全校生徒に対してボランティアを募集して保全活動を実施。平成29年度43名、30年度は55名が参加。

まとめ

人々の生活を豊かにするためにおこなわれた河川の治水工事や護岸の改修工事は、イタセンパラの生息地を減少させ、河岸の樹林化は、砂地を減少させ、ヘドロをワンドの底に溜めた。生活排水やゴミは、河川の水質を悪化させた。これらは、イタセンパラの生息環境を悪化させ、「絶滅の危機」へと追い込んでしまった。外来生物による捕食被害や競合も大きな問題となっている。

イタセンパラの現状を伝え、地域での認知度を高める活動が、「保護につながる活動」である。

東邦高校周辺におけるブルーギル捕獲と透明標本製作

(東邦高校 科学研究部顧問) 平川 史子

はじめに

学校近くの川、池でブルーギル捕獲をし、透明標本や樹脂標本を製作しています。「このまま釣りを続けても、ブルーギルは減らないかもしれない。」と生徒たちも顧問も思っていたのですが、ブルーギル産卵場所で、稚魚を徹底的に捕獲することで、5か月後オイカワの赤ちゃんがヒラヒラ泳ぐ場所が変わっていました！達成感を感じるできごとでした。

調査結果

○ブルーギル捕獲について



ブルーギル産卵場所は庄内川大橋の下、小幡緑地見返池から流れ込む小川が庄内川に合流する場所で、蛇籠が積まれています(写真)。

H30年度報告書にも記載したとおり、H30年10月本校OBがこの

場所でブルーギル稚魚集団を見つけました。ガサガサで数十匹捕獲。そのうち標本になりうる大きさの42匹は透明標本にし、60匹の体長データを箱ひげ図にしました(昨年度報告書)。

標本製作にとってはいい場所を見つけたと喜んでいたのですが、5か月後の3月に再度訪れたときは、ブルーギルは全く見られず、体調2センチくらいのオイカワが目視で数十匹観察されました。

季節によって稚魚の種類が変わるのかもしれないと思い、2か月ごとに観察に行きましたが、いつもオイカワの稚魚がみられました。ブルーギル捕獲から1年後の11月には100匹以上のオイカワがいました。10匹ほど捕まえて理科室水槽で飼育を始めました。体長は3センチから5センチ。現在少し大きくなっています。

○その他の取り組みと成果

庄内川大橋以外では猫が洞池、隅除川でガサガサと釣りを行いました。

本格的な「生き物調査」といえるほどたくさんの生き物を獲れてはいませんが、ザリガニやアカミミガメで樹脂標本を作るという新しい取り組みが生まれました。

まとめ

これからも庄内川大橋下を観察し続け、オイカワの稚魚が育つように見守りつづけようとはりきっていたのですが、最近護岸工事が行われたようで、新たな蛇籠がびっしりと積み、オイカワの赤ちゃんはどこかに行ってしまいました。予め河川事務所に連絡して、工事予定など確認してから調査をすればよかったと後悔しています。蛇籠は魚が卵を産み付ける場所になりやすいとのことなので、またオイカワの稚魚が現れるといいなと思います。

最後に、環境デーでは「矢田・庄内川をきれいにする会」で知り合った方々が次々とブースに來られ応援とアドバイスをくださいました。また釣りを通して知り合った魚大好き小学生たちが本校文化祭に標本を見に来てくれました。温かいつながりを感じることができた令和元年。関わってくださった皆様に感謝いたします。



はじめに

南山学園はカトリック校であり、その単位校の一つが男子部。中高一貫教育で部活動の多くが高校生のリーダーシップのもとで、日常活動をしている。理科部生物班は、昭和43年に発足し、50年以上の活動をしており、現在、約40名の部員を有し、飼育・研究・採集をしている。

調査結果

夏合宿 安曇野散策 7月21～23日

安曇野は、自然保護を地域ぐるみで行い、キャッチ&リリースが原則である。さすが田淵行男記念館がある街だ。写真は、常念岳へと向かう途中で撮影した。この道中は採取できるが、残念なことに小雨が断続的に続き、思うような採取はできなかったが、それでもカラスアゲハやコムラサキなど、生徒たちは大網を振っては、走っていた。途中、猿の群れに遭遇し、緊張した場面もあった。このような体験も学習と考えている。



参加者の集合写真

春合宿 日間賀島 3月28～29日

日間賀島は、知多半島の沖合にあり、河和から海上タクシーなら30分ほどで行ける。磯採集は複雑な生態系を見ることができ、生物多様性を知る上で重要な機会だ。夏は熱中症の心配があり、この時期に実施している。本当は、四季の変化を調べたいが、金銭的に難しい。

春の一日採集 水鳥谷 5月25日

新緑の季節、樽見鉄道からの風景は、生徒たちの情緒にもいい。水鳥谷は根尾谷断層の最寄り駅だ。そこから山道に入り、上流域で水生昆虫や蝶の採取をした。

秋の採集 長ノ山湿原 9月20日

文化祭の展示に向けて、作手村の長ノ山湿原に水生昆虫の採取に出かけた。ミズカマキリやタガメなどがとれて、文化祭では小学生たちを釘付けにした。

まとめ

年間2回ずつの合宿と日帰り採集に加え、学校の近くにある山崎川や興正寺など、生物を採取して、飼育している。甲羅の直径は50cmにもなるミシシッピーアカミミガメは、先輩たちから何世代も受け継いで飼育している。

ただ顧問としては、「生物オタク」で終わってほしくないという教育目標がある。よって、生態系の基本の「き」である植物には、こだわっている。また動物と言っても生徒たちが好きなのは、「虫」であり、哺乳類や鳥類への関心はない。虫も蝶や甲虫は好きでも、それ以外は…。というように狭い世界で終わることがないように心掛けている。その点、今年度は、第31回愛知サマーセミナーをきっかけに、なごや生物多様性センターの講座を手伝い、参加できたことは極めて大きい。専門家の講義を高校、中学生が聞くことは受験勉強や定期考査の勉強のみで終わるのと、将来、大きく違うと思うからである。ホンモノにふれることは、生徒たちに多様な出会いときっかけを与えることになるからだ。

他校の「生物好き」とふれあうことも重要だと思っている。同世代の異質とのふれあいも、多様性・共生の大きな学びの場だからだ。

相生山緑地自然観察会

団体の目的・主な活動内容

- 目的
自然観察を通して、自然に親しみ、自然のしくみを学び、自然保護・保全の大切さを伝え守ることを目的とする。
- 活動
 - ・観察会
 - ・調査・保全・保護活動
 - ・ガイドブック・冊子などの企画・執筆
 - ・なごや生物多様性センター、天白区役所、他パートナーシップ事業
 - ・他団体との情報交換など

令和元年度の活動について

- 観察会：四季折々の植物・昆虫・鳥などをテーマに実施
 - 5/17(金) そっと観察しよう～ヒメボタル
 - 5/19(日) ヒメボタルを観察しよう
 - 6/1(土) 天白の植物たち～自然観察から伝えたいこと～
 - 6/2(日) ヒメボタルの舞う森を体感しよう&美化活動
 - 7/21(日) 身近な木と友達になろう&標本づくり
 - 10/19(土) 旅をするチョウ“アサギマダラのマーキングをしよう”
 - 10/27(日) 天白区民まつり
 - 11/8、11/9、11/10「なごや生きもの一斉調査2019～ひつつきむし編～」
- 連続講座〈なごや学マイスター講座〉
 - 10/7、10/21、11/11、11/18、12/9、12/16
 - 自然観察ガイドをしてみませんか～秋の相生山緑地を存分に楽しんで～ 主催：天白生涯学習センター



△ヒメボタル (オス)

連携：天白もり・フォーラム
 主催：天白生涯学習センター
 主催：天白生涯学習センター
 主催：名古屋市環境推進室
 主催：なごや生物多様性保全活動協議会
 連携：天白もり・フォーラム
 主催：天白区役所
 主催：名古屋生物多様性保全協議会

活動団体の紹介 主な活動場所 相生山緑地オアシスの森 (名古屋市天白区)

相生山緑地自然観察会

携帯電話：080-9110-3330 E-mail：kimiko.k@chorus.ocn.ne.jp

■例会の予定：定例観察その他 ヒメボタル、アサギマダラなどをテーマに観察会実施

「あいちの海」グリーンマップ

団体の目的・主な活動内容

目の前にある三河湾と伊勢湾という素晴らしい海の魅力を町の人や地元の人に知ってもらうこと。

令和元年度の活動について

- ①4月初旬 南知多町聖崎・長谷崎のウミウシ調査 (夜間調査も含む)
- ②5月11日(土) ヨットで佐久島へ!
河和港からヨットで佐久島へ行きました。河和と佐久島の間で世界最小のイルカ、スナメリを見ることが出来ました。佐久島では、愛知みずほ大学の川瀬基弘先生の指導のもとで、何種類もの海の生物の化石を見つけることも出来ました。
- ③6月1日(土) 15:00より 南知多町大井港でクサフグの集団産卵観察会
- ④8月3日(土) 18:00より ウミホタルとアカテガニ放仔観察会
- ⑤8月4日(日) なごや生物多様性センターサマースクール チリメンモンスターをさがせ！in大井
名古屋からは貸し切りバスで25名が参加。地元の中中学生4名がスタッフとして、また地元大井小学校の校長先生、師崎中学校の校長先生、教頭先生が様子を見に来てくださいました。
- ⑥9月21日(土) 10:00～13:00 南知多町環境サミットに参加
- ⑦10月20日(日) 愛知県主催 碧南市大浜漁港で開催された「三河湾大感謝祭」で、チリメンモンスターをさがせ！を開催。
- ⑧令和元年の10月～令和2年2月の代月曜日午後。瑞穂区汐路小学校トワイライト(放課後教室)でチリメンモンスターをさがせ！を実施。
- ⑨10月27日(日) 28日(月) 南知多町長谷崎・聖崎で夜間調査を実施。愛知県初確認となるオオツツレ2個体を確認。
- ⑩令和2年1月11日(土) 12日(日) あいち・なごや生物多様性EXPOに参加
活動発表とチリメンモンスターをさがせ！ワークショップ開催



△三河湾で出会ったスナメリ



△チリメンモンスターをさがせ！in大井

今年度は、磯や浅い海の生き物の状態が今までとは大きく変わりました。例年は、夏場は足にまとわりつくほどのアナアオサがまったく見られなくなり、磯を暑さで死んでしまったカキ殻が覆っていました。そのため、海藻に隠れたり食べたりして棲息していた生き物が見られなくなりました。これから地球はどうなるんだろう。今年度の生物調査は、そんな不安の連続でした。

活動団体の紹介 主な活動場所 三河湾 南知多町・名古屋市

「あいちの海」グリーンマップ

TEL/FAX：(052)841-6048 E-mail：a-ohya@sc.starcat.ne.jp ウェブサイト：http://www1.m1.mediacat.ne.jp/aichisea/

■例会の予定：不定期 (ウェブサイトを確認下さい)

愛知守山自然の会

団体の目的・主な活動内容

2004年から守山区の小幡緑地本園を拠り所として、より良い自然環境の保全と保護を目的に ①一般参加者向けの自然観察会の実施 ②せせらぎ湿地の保全・保護 ③マメナシなど希少生物の保全 ④研修や各種イベントの参加など、楽しみながら、活動をしているボランティア団体です。

全国トンボ市民サミット、県内の湿地サミット、三重県桑名市多度町八壺谷でのマメナシ保全などに参加しています。

日常的には、守山自然ふれあいスクール実行委員会、なごやの森づくりパートナーシップ連絡会、なごや生物多様性保全活動協議会の行事に積極的に参加しています。

令和元年度の活動について

- 4月：マメナシの春の観察会の応援（蛭池）
- 4月：守山区内マメナシウォーク
- 4月：三重県桑名市多度峡八壺谷マメナシ保全交流
- 6月：豊田自然観察の森・あべまきの会・小幡緑地マメナシ観察と保全
- 7月：入笠湿原（高層湿原）自主研修
- 9月：湿地サミット（名古屋市当番）・金城学院大学・八竜・蛭池見学
- 9月：三重県桑名市多度峡八壺谷マメナシ保全交流
- 11月：小幡緑地秋祭り自然ウォークブース展示など
- 11月：森づくり講座（マメナシの観察と保全）緑政土木局利活用室主催



▲あべまきの会・観察と保全（6月）



▲多度峡八壺谷マメナシ保全（9月）

活動団体の紹介

主な活動場所 小幡緑地本園内 せせらぎ湿地・マメナシ自生地

愛知守山自然の会

TEL/FAX：(052)711-3087 E-mail：norimameobata@yahoo.co.jp

■例会の予定

【自然観察会】毎月第2土曜日 10：00～11：45（小幡緑地本園トンボの時計台前 9：45集合）

【保全活動日】毎月第2水曜日・第4日曜日 10：00～12：00（小幡緑地本園内（せせらぎ湿地・マメナシ自生地））

雨池ホタルの会

団体の目的・主な活動内容

名古屋市守山区御膳洞（ごぜんぼら）にある名古屋市立大森北小学校と道路を挟んだ隣に、ため池と公園が一緒になった名古屋市内で1000番目に整備された「雨池（あまいけ）公園」があります。平成10年5月末、会員の1人が雨池の外周道路を犬と散歩中に偶然ホタルを見つけました。その後、多くの人々が輝くように光る自然の神秘に心を動かされ、雨池周辺のホタル生息地の保全に立ち上がりました。

「守山自然ふれあいスクール」検討部会にスタッフ参加して、多くの人に雨池公園の自然の素晴らしさを理解してもらい、一緒に守ってもらおうと思っています。その他、桜並木やマメナシの保全活動、公園周辺のゴミ拾い、池の浮遊物の撤去、草刈り、花壇作りなど、豊かな自然環境が育まれるように活動しています。

令和元年度の活動について

- 毎月第1金曜日午後8時から1時間ほど、大森交番前に集まって雨池公園と地域の防犯パトロールを行いました。
- 毎月第2及び第4土曜日は雨池公園周辺の清掃活動、「春の小川」の雑草除去と花壇の手入れを行いました。さらに秋から冬にかけてはヒメボタル生息地の雑草や木の枝を刈り取り、幼虫の生育を促しました。
- 3月2日（土）には学区子ども会連合会や大森北小学校PTAと共催で「もちつき大会」を行い、190名の参加者がありました。
- 当初5月18日に予定していたヒメボタル観察会は、飛翔が遅れていたため1週間延期し25日（土）に85名の参加者を得て行いました。幸い多くの飛翔が観察出来、子供たちも大喜びでした。
- 8月17日（土）に総勢70名の参加者で毎夏休み恒例の「夏だ！元気にあそぼう会」（魚釣り、虫取り、スイカ割りなど）を行い、地域の子供たちとの交流を深めることが出来ました。ヘラブナがたくさん釣れました。



△夏だ！元気にあそぼう

活動団体の紹介

主な活動場所 名古屋市立大森北小学校の学校隣接公園である雨池公園周辺

雨池ホタルの会

TEL：(052)792-0022 E-mail：rei-hirose@gaea.ocn.ne.jp

■例会の予定：毎月第2及び第4土曜日、午前10時から

大高緑地湿地の会

団体の目的・主な活動内容

大高緑地湿地の会は、湿地復元活動を行う前は、毎月1回大高緑地を半日かけて、鳥や植物等の観察会を行っていました。その活動の中で、花木園が猛暑・少雨の夏でも水がコンコンと湧き出していた事と、水がしみ出しているところに東海地方固有の植物トウカイコモウセンゴケやシラタマホシクサが生えていた事で、この水を利用して消滅しつつある湿地を復元して、そこに生息する植物や昆虫を増やせないかと考えたのが活動のきっかけです。

活動は2000年頃からで、まず初めに大高緑地を管理している愛知県に湿地復元活動の趣旨説明や許可を得る話し合いを行いました。2001年9月に県から許可が下り、2002年から活動に入りました。

令和元年度の活動について

現在の活動内容(右表)は、毎月第二日曜日9時から11時30分で、湿地の植物に十分な日光が当たるようにするための草刈り・落ち葉掻きがメインです。また、湿地性の植物は他の植物と違って栄養状態が良いと育たないため、刈った草などは全て別の置き場に運んでいます。その他、名古屋市レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類のアズマヒキガエルの卵とオタマジャクシの保護と外来種のアメリカタリガニ・ウシガエルの駆除及びトンボのヤゴ調査と保護を行っています。



【主な活動内容】

1月	コモウセンゴケの丘の落ち葉掻きと刈り込み
2月	コモウセンゴケの丘の落ち葉掻きと刈り込み
3月	湿地上部・誘導路の草刈り
4月	冬鳥の餌場の草刈り
5月	シラタマホシクサ自生地の草刈り
6月	中央湿地の草刈り
7月	たまり池・導水路周囲の草刈り
8月	池のアシ刈り
9月	里山植物群落の草刈りと落ち葉掻き
10月	コモウセンゴケの丘の草刈り
11月	シラタマホシクサ自生地の草刈りと種まき
12月	中央池の泥上げ

活動団体の紹介 主な活動場所 大高緑地内花木園

大高緑地湿地の会 (代表：大主順一)

TEL：(052)413-4435 E-mail：yoka1115@violet.plala.or.jp

■例会の予定：無し

尾張サンショウウオ研究会

団体の目的・主な活動内容

名古屋市内のカスミサンショウウオの水辺環境の整備と保全。この地方のカスミサンショウウオの保全について調査と協力体制をつくる。また情報の共有をする。カスミサンショウウオ以外にも、ニホンアカガエルやアズマヒキガエルの保全にも取り組んでいる。

令和元年度の活動について

繁殖シーズン前に産卵地の整備と、産卵期を過ぎたあたりに一斉調査を行なった。一斉調査ができない地域は各地で行なっている方々と情報共有し、名古屋市内のカスミサンショウウオの生息状況の把握に努めた。その他、危機的な状況にあるアズマヒキガエルの産卵状況も把握し、遺伝的多様の把握も視野に入れながら調査を行なった。

この地方のカスミサンショウウオは2019年2月に分類が見直され、ヤマトサンショウウオとなった。

活動人数約9人



活動団体の紹介 主な活動場所 名古屋市内全域

尾張サンショウウオ研究会

TEL/FAX：(052)781-2595 (瀧川正子)

E-mail：fwie6142@mb.infoweb.ne.jp (藤谷武史)

takikawa-m@mtg.biglobe.ne.jp (瀧川正子)

■例会の予定：不定期

雑木林研究会

団体の目的・主な活動内容

◆目的

人間と自然のよりよい関係が模索されている中、雑木林（里山林）を一つのモデルとして取り上げ、フィールドをめぐりながらその役割を解明し、今日的価値を探求することによって、両者の新たな共生関係を見出す。そして、かつての役割を失い、放置されつつある雑木林の新たな活用法を探る。

◆主な活動内容

オープンセミナー、研究会、フィールドワーク、研修ツアー、協働参画活動など

◆これまでの主な活動テーマ

生物多様性環境としての雑木林（里山林保全技術）、子どもと雑木林（雑木林の教育力・木育）、アートと雑木林（雑木林の創造力・グリーンウッドワーク）、公園空間としての雑木林、ヒーリング空間としての雑木林（雑木林の治癒力）、住民参加・協働の場としての雑木林、里山林保全活動と市民講座、里山型公園緑地のマネジメント、里山林と木質バイオマスエネルギー、里山林の水源涵養機能と雨水利用、里山林と木工芸・民芸、雑木林と竹林の管理・利用・竹芸など

令和元年度の活動について

- 研修ツアー「佐渡の里山探訪と鼓童ライブ」2019/8/17～19
- フィールドワーク「アチェメックの森ワークショップ」あいち小児保健医療総合センター内樹林地
2019/4/21・7/21・10/20・12/22



▲研修ツアー「佐渡の里山探訪と鼓童ライブ」2019/8/17～19



▲フィールドワーク「アチェメックの森ワークショップ」
2019/春4/21・夏7/21・秋10/20・冬12/22

活動団体の紹介 主な活動場所 特定の活動場所は持たない

雑木林研究会

TEL/FAX：(052)262-3181 E-mail：k-mayumi@aurora.ocn.ne.jp ウェブサイト：なし
定例幹事会：毎月第1月曜日 午後7時より

滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会

団体の目的・主な活動内容

滝ノ水緑地は、名古屋市緑区にあり、約4.4haの雑木林の中に、小さなため池と湿地があります。この地域が市街化される前の原風景を残す貴重な場所です。

私たちは、1997年に滝ノ水緑地公園愛護会として活動を始めました。2010年からは、滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会となり、緑のパートナーとして、名古屋市と協定を結びました。2011年には、滝ノ水緑地維持管理計画を作成して、滝ノ水緑地の植生および生態系を維持・再生するための活動をしています。

令和元年度の活動について

〈定例活動〉

湿地：除草、笹刈り、シラタマホシクサの管理、ミズゴケの管理、常緑樹の除伐など
樹林地：除伐、しがら柵づくり、落葉かき、ビートルズベッドの管理、枯れ木の処理など
池：アメリカザリガニの捕獲、池に溜まる落葉の回収など

〈イベント〉

6月16日：環境デーなごや・身近な自然体験会「森で木を伐ってマイバッジ作り」
子供たちとその家族に、雑木林の保全活動としての除伐を体験してもらうための活動です。
12月22日：滝ノ水緑地維持管理計画のフォローアップ「森のめぐみを利用してクリスマス&お正月の飾り作り」
森の素材でクリスマスリースや松飾りを作って、地域住民と滝ノ水緑地の恵みを共有するプログラムです。

〈調査〉

なごや生物多様保全活動協議会により、2017年の池干し後もモニタリング調査が継続的におこなわれています。

〈その他〉

湿地の保全活動について詳しい方に来ていただき、作業の実践を学んでいます。



▲身近な自然体験会

活動団体の紹介 主な活動場所 滝ノ水緑地（緑区）

滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会

TEL：070-2639-6686 FAX：(052)895-8628 E-mail：sumicco.g1601@gmail.com
■例会の予定：毎月第3日曜日 9：00～12：00（11月～3月は、10：00～12：00）（変更することがあります）

地球ハグ倶楽部

団体の目的・主な活動内容

【目的】

全ての生命をはぐくむ自然の中で、親子で遊ぶ。
「ハグ+コミュニケーション=ハグニケーション」という、ハグするようなあたたかなコミュニケーションを伝え広げる。自然体験を通して、まずは一番大切な自分自身、家族、お友達、自然とつながり元気になる。持続可能な社会のために、自分と家族とみんなと自然を大切にできる子供たちを育む。身近なつながりから世界を良くしていくことを目的としています。

【活動の3本柱】

- 自然の恵みをとって食べる“美味しい”体験
- 自然の素材で作って遊ぶ“楽しい”体験
- 自然の神秘を五感で感じる“美しい”体験

【育みたい3つの力】

■自分を信じる力 ■大切な人を愛する力 ■自分と地球をハグできる力



令和元年度の活動について

- 4月／海の発光生物の不思議を見てみよう探してみよう（子ども夢基金）
- 6月／陸の発光生物の不思議を見てみよう探してみよう（子ども夢基金）
- 9月／ダムツアー（陸水学会東海支部）・環境デーなごや
- 4月～3月／なごや環境大学 前・後期（なごや環境大学）

活動団体の紹介

主な活動場所 愛知県中心

地球ハグ倶楽部

連絡はメールにてお願い致します。 E-mail : hugtheearth.club@gmail.com

ウェブサイト : <https://chikyu-hug.club/>

■例会の予定：不定期（ホームページを参照）

中部蜘蛛懇談会

団体の目的・主な活動内容

- 目的：クモ類の採集、観察、調査、研究など
- 創設：1969年
- 会員数：82名
- 会誌「蜘蛛」年1回発行
- 通信誌「まどい」年3回発行
- 総会・研究発表会・懇親会：毎年2月11日（建国記念の日）
- 観察会（年4回以上）合宿（年1回）

令和元年度の活動について

（事業年度：4月～翌年3月）

○主な活動

- 総会・研究発表会・懇親会（2月11日ウィルあいち）
- 観察会（5月12日・6月15日・9月15日・10月6日 全4回）
- 夏休み子ども観察会（7月22日 名古屋市八事山興正寺）
- 合宿（8月3・4日 長野県白馬町神城）
※三重クモ談話会と合同で実施
- ブース展示
環境デーなごや2019（10月27日 久屋大通公園）
あいち・なごや生物多様性EXPO（1月11・12日 名古屋国際会議場）



△夏休み観察会（7月22日名古屋市八事山興正寺）



△おぢよぼの「ユカタヤマシログモ」

活動団体の紹介

中部蜘蛛懇談会

E-mail : mail@ckumo.sakura.ne.jp

ウェブサイト : <http://ckumo.sakura.ne.jp/> 《[中部蜘蛛懇談会] で検索》

- 入会：子どもから研究者までどなたでも歓迎
- 観察会の参加：会員以外でも参加自由・無料
（開催日はウェブサイトに掲載）

中志段味の自然を次世代に伝える会

団体の目的・主な活動内容

才井戸流流域は将来『才井戸流湧水自然公園』（仮称）として今の自然をそのまま生かしながら生き物たちに触れられる公園になります。田んぼ跡の湧水ポイントから出る水と全域から染み出す水がこの流域の生き物たちを支えています。澄み切った川には「川モズク」が、河岸段丘の境目には「沢蟹」が生息しています。これらの自然環境保全とそこに生きる生物たちの繁殖を助けてやれるよう、湧き出る水と吹き上がる砂・河岸段丘の境目から染み出る水を大切に生かし保全を実証しながら次世代へ永続的に継承するのが私たち「伝える会」の活動です。

令和元年度の活動について

全体として現状からの変化を見る年になりました。蟹原湿地では残すヨシの量（哺乳類と鳥類のため）を蛭神池とナナ池と三ヶ月湿地では現状維持を思いながら湧水量の自然な変化をトンボ池とメダカ池では水量・湧水ポイントの移動変化や水の色の変化などを見てきました。生き物達の変化ではトンボの数と種類がメダカの数でも前年に比べて増えて来ました。

市民が楽しめる自然公園にするために希少植物のコドラト調査・歩道の植物調査・哺乳類調査などの基礎的活動をもとにして生き物たちの繁殖条件を整えた活動が令和元年度の活動になります。



活動団体の紹介

主な活動場所 才井戸流全流域

中志段味の自然を次世代に伝える会

TEL : 080-6968-2327 (深田) E-mail : f-jin@yc5.so-net.ne.jp

■例会の予定 : 定例打合せ会 / 毎月第3土曜日 17:00~19:00

定例作業日 / 毎月第1土曜日 朝一番~11:00 他随時

なごや外来種を考える会

団体の目的・主な活動内容

2010年から名古屋市と周辺の地域で活動しています。「名古屋地域の健全な生態系を守る」ことが活動目的です。活動内容は「外来種の調査・駆除・啓発・情報発信」です。他との協働も積極的に行います。

令和元年度の活動について

5月~6月 協議会「オオキンケイギク部会の山崎川・植田川駆除活動」に携わりました。延べ28人でゴミ袋23袋分のオオキンケイギクを駆除しました。山崎川は5年間続けていますが、当初から思うと2割以下に減っていると思います。

7月13日には、猪高緑地で「外来生物を捕る会」を、7月28日には「外来生物を食べる会」を名東生涯学習センターで開催し、アメリカザリガニの塩茹での他ブラックバスの煮ごり・唐揚げ、ブルーギルの柔らか煮などを27人の参加者に食べてもらいました。駆除すべき外来生物にも命があるのだから、せめて大切に食べてあげることに参加者も満足してもらっています。

また10月27日に外来種のムネアカハラビロカマキリの分布調査を明德公園で行いました。ことしは昆虫全般があまり見られず、ムネアカを含めカマキリは1匹も見当たりませんでした。

1月は「トウネズミモチの駆除実験」を行いました。一般的に駆除しにくい外来樹木と言われていますが、切り倒した切口に食塩を盛るだけで枯れる「塩盛り法」は駆除率85%で駆除法として落ち着いたのですが、細い木やひこばえは断面が小さくて塩を吸収せにいため、塩で枯死させる方法がまだ確定していません。今年は表皮をむいたところに塩水を含ませた脱脂綿をガムテープで巻きつける「綿塩巻き法」を試行してみました。3か月ぐらいで効果が出ればと期待しています。



△外来生物を捕る会



△外来生物を食べる会

活動団体の紹介 会員募集中!

主な活動場所 その都度検討

なごや外来種を考える会

TEL : 090-8867-9725 FAX : (0561)62-5510 E-mail : nonaka@kato-ken.co.jp

ウェブサイト : <http://nagorai.org/> 活動ブログ : <http://blog.goo.ne.jp/nagorai>

■例会の予定 : 不定期

「なごや環境大学」実行委員会

団体の目的・主な活動内容

なごや環境大学は、市民・市民団体、企業、教育機関、行政が協働でつくる、環境活動のネットワークです。「環境首都なごや」そして「持続可能な地球社会」を支える「人づくり・人の輪づくり」を進め、行動する市民、協働する市民として「共に育つ（共育）」ことを目指しています。

令和元年度の活動について

令和元年度は、SDGsをキーワードに主催事業を開催しました。“お買い物からSDGsを知る！「環境白書から実践へ」”では、令和元年度版の「環境白書」を元に、行政からは世界や日本の環境分野における動向を学び、地元の中小企業からは自社の取り組みがSDGsとどのように関わっているかについて学びました。

また、ユースの企画により、SDGsに関連したランチやカードゲームを通してSDGsへの学びを深める“SDGs PARTY”を開催しました。

今後、分野・主体・世代を超えた交流の場や、それぞれの主体が持つ知識や経験をつなぎ合わせる場などを創り出し、人づくり・人の輪づくりをすすめていきます。

〈令和元年度の主な主催事業〉

- ・お買い物からSDGsを知る！「環境白書から実践へ」
- ・なごやの環境平成史
- ・森イキ！デザインプロジェクト
- ・SDGsに向けての協働型のしくみづくりに関する自治体ミーティング



活動団体の紹介 主な活動場所 まちじゅうがキャンパス

「なごや環境大学」実行委員会

TEL/FAX：(052) 223-1223 E-mail：jimu@n-kd.jp ウェブサイト：https://www.n-kd.jp

■例会の予定：なし

公益財団法人名古屋港緑地保全協会

団体の目的・主な活動内容

豊かで快適な港湾環境を創出するため、適切な環境保全に努め、緑化に関する調査及び研究を行い、あわせて緑化に関する思想の普及啓発、花木の生産、頒布など緑にふれあう機会と場を提供することで、名古屋港の発展と親しまれる港づくりに寄与することを目的としている。

令和元年度の活動について

- ・花の名前当てクイズ
- ・富浜緑地わくわく体験教室
- ・緑地見学会
- ・園芸講習会「クリスマスの寄せ植えづくり」
- ・緑の講演会「外来生物と里山保全」
- ・刈草、剪定枝を原料とした堆肥の製造及び無償配布
- ・伐採木無償配布（燃料として）



活動団体の紹介 主な活動場所 名古屋港の臨港緑地

公益財団法人名古屋港緑地保全協会

TEL：(052) 659-0880 FAX：(052) 659-0628 Email：info@npgpa.jp

ウェブサイト：http://www.npgpa.jp/

名古屋昆虫同好会

団体の目的・主な活動内容

この地球には様々な生物が暮らしています。その中で種数の半分以上を占める昆虫は、その生活様式をそれぞれの棲息場所の環境に適応させて、様々な進化を遂げてきました。様々な昆虫がいることを知ること、それらの昆虫が多様な生活をしていることを知ることなどは、私たちが自然を理解することの一つの入り口になります。そのような昆虫に興味を持った人々が集まった会が名古屋昆虫同好会です。

戦後間もない1949年に創立され、小学生から社会人、リタイア組みなど、地元名古屋を中心に、全国の約270名の虫好きが入会しており、東海地方を中心とした全国の虫情報（データ・生態等）が掲載される会誌「佳香蝶」と、会員情報やよもやま虫談義などを掲載する連絡誌「NAPI NEWS」を、それぞれ年4回発行しています。

2020年の活動について

- ・「佳香蝶」「NAPI NEWS」を、年4回3ヶ月ごとに発行。
- ・1月第3日曜日 年次総会の開催
- ・1月と10月を除く毎月第二土曜日（原則）月例会実施
- ・10月第3日曜日 虫供養（千種区桃巖寺）実施
- ・4月ギフチョウ観察会in岐阜県中津川市
- ・7月採集会in中部地方の適地
- ・子供採集調査会inなごや圏周辺



△シンポジウム



△夏の採集会

活動団体の紹介

名古屋昆虫同好会（会長：間野隆裕）

TEL：090-9924-3518 FAX：(052)442-1503 E-mail：manotaka@mu.j.biglobe.ne.jp

ウェブサイト：<http://nagoyakondo.com/>

活動場所：毎月の例会と総会は名古屋市千種区吹上の中小企業振興会館（通称吹上ホールのある会館）4階で、情報交換や名前調べ会などの例会を実施しています。

名古屋産業大学 長谷川研究室

団体の目的・主な活動内容

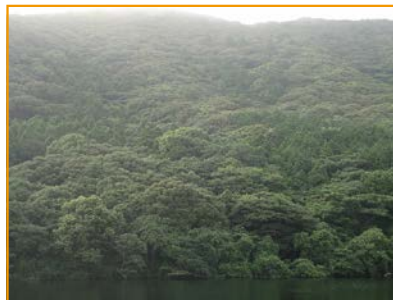
身近にある自然環境の生物多様性を高めると共に、より生態系サービス（自然からの様々な恵み）が豊かな地域社会を作るための方法を探求しています。

研究室のゼミだけでなく、エコレク部等の部活・サークル活動とも連携して、Web図鑑の作成、魅力的な散策ルートの開発、生物多様性に関するゲーム開発などを企画しています。

令和元年度の活動について

里山や都市緑地、都市公園を対象に、生物多様性、生態系サービスの実態把握とその可視化の方法を検討していきます。

- ・寺田地区の里山や湿地の生き物調査
- ・森林公園、東谷山などの生物や生態系についての基礎調査
- ・名古屋市内の公園緑地の植生やその保全活用状況についての調査
- ・生物や生態系サービス情報の可視化や活用方法の検討
- ・東海3県の絶滅危惧植物や希少生態系の調査



希少種等の生育環境の解明

絶滅危惧種が多いラン類、菌従属栄養植物

ササユリ・東海丘陵要素など
公園・緑地の保全・活用の調査

都市公園

巨樹、神社などの歴史的緑地・緑

活動団体の紹介

主な活動場所 尾張旭市、名古屋市、瀬戸市ほか東海3県

名古屋産業大学 長谷川研究室

TEL：(0561)55-5101（大学代表）

FAX：(0561)52-0515（大学代表）

E-mail：y-hasegawa@nagoya-su.ac.jp

名古屋自然観察会

団体の目的・主な活動内容

名古屋自然観察会（正式名は、愛知県自然観察指導員連絡協議会名古屋支部）は、主に名古屋市内在住または在勤している自然観察指導員（財団法人自然保護協会による認定資格者）によって1982年に結成されました。現在の会員数は約100名です。主な活動場所は名古屋市内です。本会は、発足以来、身近な自然に親しみ、自然のしくみを理解し、自然を守るための自然観察会やそれに伴う環境保全活動などを実施しております。近年では、これらの活動と並行しながら、名古屋市環境局などと協力しながら、環境教育等の様々な活動を行っています。

令和元年度の活動について

- ①市内11箇所の緑地や公園などでその自然の特色を生かした自然観察会やネイチュア・フィーリングなどの特色ある自然観察会を実施しました。
- ②子供の自然体験と健全な発育を促すための“なごや自然教室”を3回実施しました。
- ③名古屋市の身近な自然にふれるために5月に“ふるさと親子自然観察会”を、また8月になごや生物多様性センター主催の「サマースクール」を実施しました。
- ④名古屋市環境局の環境デーなごや実行委員会が主催する身近な自然体験会（6月）を実施し、環境デー中央行事（9月）にブース出展しました。
- ⑤名古屋市内の幼稚園や保育園、小学校などへ環境サポーターを派遣し、名古屋市環境局のエコキッズ事業に協力しました。
- ⑥会員のスキルアップを目的とした研修会を3回実施しました。
- ⑦愛知県自然観察指導員連絡協議会が主催する様々な事業に参加・協力しました。
- ⑧機関紙「なんじゃもんじゃ通信」を6回発行しました。
- ⑨ホームページなどを通じて情報発信しました。



▲ふるさと親子自然観察会（鶴舞公園）

活動団体の紹介

主な活動場所 市内の緑地や公園

名古屋自然観察会

TEL：(052)782-2663 FAX：(052)781-8127 E-mail：takilin@sf.starcat.ne.jp

ウェブサイト：<http://www.nagoyashizen.net/>

■例会の予定：例会は実施していません（役員会は偶数月の第3日曜日）。

名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち

団体の目的・主な活動内容

ヒメボタルを絆として、温かい心のつながりが広がるのが願いです。1975年にお堀電車の駅員だった竹内氏が、ヒメボタルの大発生を見出し、その後専門家の指導のもと保護活動をされていました。氏ご逝去後、家族・知人・氏と交流のあった小学校教員と教え子や親御さん方等で受け継ぎ、その輪が縦や横に広がっています。

ホタル発光の時期は、毎晩ホタルの数を数えたり、人々をご案内したりしています。「外堀は空堀で、ヒメボタルは陸生」「都会の真ん中のお城にヒメボタルが自然発生していることは大変貴重であること」等正しい情報発信をするため、ブース出展やステージ発表・お話し会等を行っています。専門家の方のご指導を受けて調査も行います。市と外堀の草刈り等管理方法を相談したり、清掃も行ったたりしています。

歌や絵本を作る・写真を撮る等、一人一人が自分にできることで活動をしています。



▲11月30日 外堀清掃

令和元年度の活動について

- ホタル発光の時期、毎晩23時頃～2時頃、ホタルの数を数え毎日HPにUP、人々のご案内をしました。発光時期は、4月下旬に初見・5月25日がピーク・6月3日が最終でした。昨年は6月には全く見られなくなったのですが、今年は少なめながら長い期間発光してくれたため、多くの人たちを楽しませてくれました。（6月に発光というのは例年に戻った感じですが。）また、今まで見たことのない歩道で光っているのも観察され、ホタルの生息場所が少しずつ変化しているのを感じました。現地では一人一人へのお声かけを大切にさせていただきました。
- 北土木事務所の方とは、ホタル発光時期前を中心に現地の安全確認をして、危険な箇所はすぐに対応していただきました。中土木事務所の方からも、道路や橋等の工事の計画等の説明を受け、配慮をしていただきました。
- 4月と11月に外堀の中に入って清掃をしました。行政・企業・市民の協働で行います。今年度は、他のフィールドで自然保護をしていらっしゃる経験豊富な皆様にも外堀清掃をしながらご指導ご支援いただき、とても多くのことを学ぶことができました。
- 1月には国際会議場で「あいち・なごや生物多様性EXPO」のブース出展をさせていただきました。環境に関心の高い方々がたくさん訪れてくださり、私たちが色々なことを教えていただいた貴重な時間でした。

活動団体の紹介

主な活動場所 名古屋城外堀（外堀通沿）

名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち

TEL/FAX：なし E-mail：meijo_himebotaru_kanbu@googlegroups.com

ウェブサイト：<https://sotobori.amebaownd.com/>

■例会の予定：不定期（ウェブサイトを確認下さい）

名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科附属 生物多様性研究センター

団体の目的・主な活動内容

名古屋市立大学では、2009年度末に、生物多様性に関して多様な研究を行うとともに、啓発活動を継続的に行う研究センターを設立しました。本研究センターでは、「生物分類」「生物進化」「生物地理」「生態適応」「遺伝子資源の探索」「希少種の保全」など幅広いテーマで、生物多様性の理解と生態系の保全を目指して研究を進めています。また、全生物種について特定の遺伝子の塩基配列をカタログ化し、生きものの名前を遺伝子から特定できるシステムを作ろうという取り組み（DNAバーコード計画）に携わり、東海地方の動植物や東南アジアの魚類など、様々な生物の標本とDNAデータを収集しています。御興味をお持ちの方はどうぞ見学に来てください。

令和元年度の活動について

多くの方々のご協力のもとに、東海地方を中心に動植物の標本収集を行いました。これらの標本からミトコンドリアDNAの塩基配列決定を行い、系統解析を行いました。特に、名古屋市及びその近郊のカエル類やワシタカ類について、個々の種を特徴づけるDNAバーコードを取得するとともに、種内の遺伝的多様性を調べました。このほか市立高校の植物図鑑の作成に協力したり、生物多様性の意義とDNA解析についての研究室体験講座を行ったりしました。また環境デーなごや及びあいち・なごや生物多様性EXPOに出展し、名古屋圏の生物多様性とその保全の重要性について市民への啓発活動を行いました。

活動団体の紹介

名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科附属生物多様性研究センター

TEL : (052) 872-5851 FAX : (052) 872-5857 E-mail : biodiv@nsc.nagoya-cu.ac.jp
ウェブサイト : <http://www.nsc.nagoya-cu.ac.jp/biodiv/>
■例会の予定 : なし

- 様々な資料の収集と保存



カエル類

猛禽類

植物など

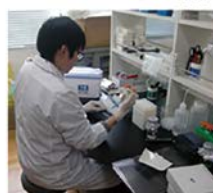


組織の切り出し



保管用サンプル

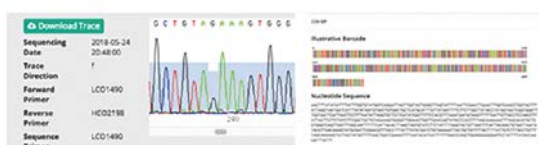
- DNAバーコードの解析



DNA抽出及びPCR



塩基配列の解析



DNAバーコードのデータベースへの登録

なごやの森づくりパートナーシップ連絡会

団体の目的・主な活動内容

名古屋の自然を守り、育て、ふれあい、学び、後世に継承することをめざし、加盟団体間の連絡を円滑にし、お互いに協力しあうことにより、各団体の活性化を図る目的で設立されました。

令和元年度の活動について

- 2019年度の加盟団体数 森づくりを楽しむ31団体が加盟
 - ・定例会の開催：偶数月 第2金曜日18：30～定例会の開催
奇数月 第2金曜日18：30～幹事会の開催
 - ・フィールド訪問の開催
加盟団体の活動日に訪問し、研修会を兼ね課題の共有化を図る目的で、11月は、「名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち」の現地訪問が行われました。
 - ・テーマ協議
定例会では、6月に「刈り払機」のアンケートを実施、その後、調査の中身を検討、ここ数年、刈り払機の講習会が開かれていないことから12月には、名古屋市から刈り払機の講習会に向けてのアンケートが実施されました。
 - ・環境デー・あいち・なごや生物多様性EXPO
9月の栄の環境デー・湿地サミット（金城学院大学など）・1月の生物多様性EXPOにてブース展示を行いました。
 - ・スキルアップ研修会の開催
2月は「鶴舞公園・緑化センター」2階講習室にて、岡村 稔（名古屋市立大学名誉教授）をお招きし、「都市の緑地と土壌学」を学びました。
 - ・広報の充実
森づくりを広報するために湿地・竹林管理などのパネルをつくりました。
 - ・その他 市主催の森づくり講座を4か所の緑地で実施しました。



▲フィールド訪問・名古屋城外堀
ヒメボタルを受け継ぐ者たち（11月）



▲森づくり講座 小幡緑地にて（11月）

活動団体の紹介 主な活動場所 名古屋市内の緑地

なごやの森づくりパートナーシップ連絡会

TEL/FAX : (052) 262-3181 (事務局)

ウェブサイト : <http://www.nga.or.jp/partnership/introduction.html>

《「なごやの森づくりパートナーシップ連絡会」で検索》

■例会の予定：偶数月 第2金曜日18：30～定例会の開催、奇数月 第2金曜日18：30～幹事会の開催

NPO 法人 なごや東山の森づくりの会



● 団体の目的・主な活動内容

「東山の森」に親しみながら森を学び、森の保全と再生を目指して森づくりをしています。
いのち輝く森を次世代につなげようと活動をしています。
雑木林・湿地・竹林の手入れ、森の観察・案内、森の調査、ソバ班、畑班、田んぼ班など里山くらし体験活動も盛んです。

● 令和元年度の活動について

定期的な活動は、定例森づくり活動と12の班活動で雑木林・湿地・竹林の保全活動、子ども森づくり活動、田んぼ、畑、調査活動などです。

また、生物多様性保全活動協議会の水辺部会と東山新池の移入種スイレンの除去活動と水草の希少種の保全活動、猫ヶ洞池のヨシ原再生・ゴミ拾いワークショップを日本野鳥の会愛知県支部生物多様性保全活動協議会と協働で実施しました。

希少種、両生類の生息地の保全活動は遅れ気味です。

活動日数 290日/年、活動人数延べ約4,000人

● 活動団体の紹介 主な活動場所 なごや東山の森

(特非) なごや東山の森づくりの会

TEL/FAX : (052) 781-2595 E-mail : nh_morizukuri@higashiyama-mori.sakura.ne.jp

ウェブサイト : <http://www.higashiyama-mori.sakura.ne.jp/>

【定例森づくり】 活動参加費 : 会員/無料・一般/200円

活動日時 : 毎月第1日曜日 10:00~15:00

集合場所 : 毎回異なります

活動場所 : 奇数月/いのちの森・うるおいの森 (東山公園南部)

偶数月/くらしの森 (平和公園南部)

NPO 法人 日進野菜塾

● 団体の目的・主な活動内容

都市農地の遊休地の活用方法を考えることから始まり、生きものとの共生、自然を守る観点から有機農法を選び、日本の伝統文化を学び、命が繋がっていく営みを知り、命の大切さを知る、そんな場にしたいと考え、農体験教室、生きもの観察教室を行っています。子供の食育、環境教育、都市住民の農への理解、自然体験の楽しさ・魅力を日々発信続ける場となることを希望しています。又、地域の子育てNPO、介護・障がい者団体等との農を生かした連携も進めています。栽培は、農薬や化成肥料を使いません。

● 令和元年度の活動について

- ① 農業体験農園 (指導付き農園) 毎週土曜日 (講義と実践)
- ② ダンボール生ゴミコンポスト講座、落ち葉たい肥講座
- ③ 生きもの観察コース (子ども生きもの調査隊)
- ④ なごや環境大学共育講座「都会人の農体験塾」(前期・後期)
- ⑤ 日進・げんき朝市の事務局
- ⑥ その他、田植え、稲刈り、ハーブ教室、ミカン剪定収穫、イモ掘り、餅つきなど開催。



▲生きもの豊かな田んぼ体験



▲農業体験農園「あせだくコース」

● 活動団体の紹介 主な活動場所 日進市本郷

NPO 法人 日進野菜塾

TEL : 090-5443-1518 FAX : (052) 934-7207 E-mail : info@n-yasaijuku.com

ウェブサイト : <http://n-yasaijuku.com/>

■ 例会の予定 : 日曜日 9:00~12:00

日本カメ自然誌研究会

団体の目的・主な活動内容

本会は、カメの自然誌に関心のある研究者・ナチュラリスト・愛好家の交流・親睦・情報交換を目的とし、1998年に発足した研究会です。生息環境の破壊の影響で減少しつつある自然（野生）のカメと人が良い関係を保つためにはどうすればよいのかをみんなで考えています。交流のため年に一度「日本カメ会議」を開催しています。また在来のカメの保護や外来のカメの防除に関する、行政などの機関からの調査の要請も請け負っています。なごや生物多様性保全活動協議会が発行した「ミシシippアカミミガメ防除マニュアル」は本研究会が監修しました。

令和元年度の活動について

- ・安城市本證寺内堀環境調査事業を委託され外来種防除を実施しました。
- ・新しいウェブサイトを準備しました。令和2年度に開設予定です。



▲「あいち・なごや生物多様性EXPO」



▲安城市本證寺の生物調査

活動団体の紹介

主な活動場所 その都度検討

日本カメ自然誌研究会

住所：〒471-8532 豊田市大池町汐取1 愛知学泉大学矢部研究室室内（事務局）

TEL/FAX：(0565)35-8373 E-mail：kame@gakusen.ac.jp

■例会の予定：不定期

日本野鳥の会愛知県支部

団体の目的・主な活動内容

日本野鳥の会は1934年（昭和9年）に創設され、全国に90の支部があります。愛知県支部は本部創設の4年後1938年に中京支部として誕生し今年で77年を迎えます。活動の柱として野鳥を通して自然の大切さ、楽しさを知ってもらう普及活動、野鳥とその生息域を守るための保護活動、生態や生息数等を調べる調査活動があります。

そのうち普及活動の一つ、探鳥会は一般の方に野鳥観察の楽しさを知ってもらうため、会員以外の方も参加できます。また、参加の予約や費用も必要ありませんのでお気軽にご参加下さい。探鳥会の詳細はHP又は毎週中日新聞、朝日新聞に掲載しています。詳しくは事務所（末尾参照）へ問い合わせして下さい。

令和元年度の活動について

本年度に限らず次のような活動を継続して行っています。

1) 普及活動

探鳥会：年間140回以上 参加者はおよそ2600名

愛知県弥富野鳥園野鳥観察指導、バードウィーク写真展開催、小学校における環境学習の手伝い

2) 保護・調査研究活動

愛知県定点調査（県内22箇所所で40年以上継続中）、カワウ調査8箇所、サギ調査（東名阪弥富・蟹江インターチェンジ）、コアジサシ調査 県内全域、木曾岬干拓地猛禽類調査



▲探鳥会の様子

活動団体の紹介

主な活動場所 各地

日本野鳥の会愛知県支部

住所：〒462-0844 名古屋市北区清水五丁目10-8 グリーンフェロー3A

TEL/FAX：(052)912-9531 E-mail：front@wbsj-aichi.org ウェブサイト：http://wbsj-aichi.org

■例会の予定：不定期（ウェブサイトを確認下さい）

花水緑の会

団体の目的・主な活動内容

2002年「花水緑の公園通り」と命名した公園を結ぶ道路を花一杯にするまちづくり運動としてスタートし、公園予定地を開墾して種から育てる花づくりに挑戦する会として発足。緑区内19か所で、「花と緑」をキーワードにしたまちづくり・緑づくりのグループです。

令和元年度の活動について

各部会に分かれて独自に活動中。

【定期活動】

- ・春の種まき（3月末から4月）マリーゴールドなど。ポット移植（5月）
- ・初夏の花苗植え込み（6月）街路樹植えマス・公園花壇など
- ・秋の種まき（9月）パンジー・ノースポールなど。ポット移植（10月）
- ・秋冬の花苗植え込み（11・12月）

【年間を通しての活動】

各部会担当街路樹植えマス・公園花壇などの清掃・除草・水遣り等の維持管理。大高緑地の竹林・雑木林の保全・整備と竹炭づくり・ササユリ自生地の保全活動。

【イベントなどの参加】

あいち都市緑化フェア・みどりっ子体験フェスタ・身近な自然体験会・緑区クリーンキャンペーン・扇川緑道交流会・なごや生きもの一斉調査2019・緑区区民まつり・みどり多文化交流会・親子竹林整備体験・ビートルベットを作って遊ぼう・なごや生物多様性サマースクール2019



▲親子竹林整備体験



▲ビートルベットを作って遊ぼう

活動団体の紹介

主な活動場所 こもれび広場・大高緑地・扇川公園・通曲公園・扇川緑道・白土中央公園坊主山公園・上ノ山公園・滝ノ水緑地公園・清水山・鳴子中央公園・なるぱく・水広下・梨の木公園・左京山・亀が洞

花水緑の会

TEL：(052)625-3878

FAX：(052)623-8191（緑区区役所地域力推進室）

E-mail：a6253871@midori.city.nagoya.lg.jp

■例会の予定：不定期

隼人池を美しくする会

団体の目的・主な活動内容

域住民に愛される公園にしたいと、活動をスタート。公園や池の清掃や除草などの手入れ、池に流入する雨水や湧水の汚れの除去などを定期的に行っている。平成21年には名古屋ため池生物多様性保全協議会と協働で、市民とともに隼人池で池干しを行った。池干しでとれた外来の魚やカメ等を取り除いた。

令和元年度の活動について

地域の憩いの場として、隼人池の自然をみんなで守り育てたいと考え、日々取り組んでいる。

①定例活動

公園・池の清掃を定期的に行っている。

②その他活動

防災訓練他、年に数回あり。



▲隼人池の生きものを観察する子どもたち



▲防災訓練の炊き出し

活動団体の紹介

隼人池を美しくする会

TEL：090-4468-0500（代表：加藤昌平）

特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会



団体の目的・主な活動内容

藤前干潟の保全ならびに干潟環境の重要性についての啓発をすすめ、さらに広く伊勢・三河湾流域圏の環境再生・持続可能な社会実現をめざす。

令和元年度の活動について

- 主催事業
「干潟の学校」
「ガタレンジャー養成講座」
「ガタレンジャー Jr.」
「藤前フォーラム」
環境省・名古屋市等との共催事業
- 各種団体・学校等からの依頼による体感学習
- 環境イベント等への出展
- 環境省の委託による「稲永ビジターセンター」「藤前活動センター」の運営等

活動団体の紹介 主な活動場所 藤前干潟周辺

特定非営利活動法人藤前干潟を守る会

TEL : 080-5157-2002 FAX : なし E-mail : info@fujimae.org

ウェブサイト : <http://www.fujimae.org>

■例会の予定 : 理事会毎月1回 (不定期)・総会年1回

三河淡水生物ネットワーク

団体の目的・主な活動内容

2008年2月に設立し、愛知県を中心とした爬虫両生類、魚類、貝類、水生昆虫類などの淡水生物とそれに関わる鳥類などの生物、ならびに、河川に関わる大学や水族館・博物館、行政などの関係者や研究者（アマチュアを含む）によって構成されたネットワークグループです。「研究者間の情報交換と交流の場の創出」、「水辺生態系保全に向けた、正確なデータの収集と提言」、「市民への啓蒙と情報の発信」、「次世代の研究者育成」を目的に、年4回の会合では専門家による話題提供のほか、情報や資料の交換、標本の同定や各々の関わる事業への相互協力など。フィールドでは調査による水生生物相の把握と同時に、希少生物や外来生物の生息データの収集・蓄積。また、より多くの方に、楽しく気軽に生き物や水辺環境に関心を持って頂けるよう、水族館や博物館への展示協力、観察会やシンポジウムの講師、研究発表、研究会誌や博物館館報への投稿など、広く情報を発信しています。そのほか、図鑑をはじめとする出版物への写真の提供や協力も行っています。



令和元年度の活動について

一部、協議会・水辺の生きもの部会の部会員として、また専門家として、名古屋市内の池干しや水生生物の調査等に関わっています。引き続き、愛知県内において、希少種・外来種の調査も行っています。

活動団体の紹介 主な活動場所 愛知県全域

三河淡水生物ネットワーク

E-mail : fw-life@katch.ne.jp

■例会の予定 : なし

名東自然観察会

団体の目的・主な活動内容

豊かな自然環境を後世まで残す為、自然環境を意識する人を増やす事を目的として自然観察会を行いながら参加者の方も楽しんで体験して意識できる活動を行うことをモットーに活動を行っています。自然を大切にする人の参加大歓迎です。「春」「夏」「秋」「冬」自然との対話を楽しみましょう。

令和元年度の活動について

名古屋市名東区猪高緑地内においては昭和58年に会の設立以来、毎月第2土曜日9:30~定例自然観察会を開催してきました。

令和元年度現在までの参加者は観察会11回開催し(令和2.2月現在)3月分を仮定すると令和元年度は150~200名になる予定です。また猪高緑地内にオアシスの森事業として提案して復元された18面の棚田エリアにおいては、「なごや環境大学」の田んぼ講座活動を連続15年間に渡り、田んぼ体験講座を開催してきましたが、時代の流れ?で田んぼ周辺の環境や田んぼの保護保全の継続に対する意見の変化についていけなくなりH28年度末をもって田んぼ14チームを解散とし耕作活動も撤退しました。猪高緑地内における第2土曜日の名東自然観察会活動は以前のまま継続して開催しています。平成30年度から初心に戻り里山環境の残された自然環境豊かな猪高緑地において猪高緑地自然観察会の開催を続行させ自然との出会いで年間テーマを一会一期として参加者の方々と楽しみながら生物多様性の保全・保護・地球温暖化による環境の変化などの観察調査活動を行っています。今後ともご支援・ご参加よろしくお願ひします。



△自然観察会の様子

活動団体の紹介

主な活動場所 名古屋市名東区猪高緑地内・他

名東自然観察会 名東自然観察会代表 堀田 守

設立: 昭和58年4月~初代代表は朱雀栄八郎氏・代表没後H6年度~実績を引き継ぎ継続開催中

TEL/FAX: (052)704-1196 E-mail: hori-tamori@nifty.com

ウェブサイト: <http://homepage3.nifty.com/horitamori/> 《工事中です [名東自然観察会] で検索》

定例観察会: 活動日/毎月第2土曜日9:30~午前中 名東生涯学習センター前集合

その他: 長袖・長ズボン着用・あれば図鑑・虫眼鏡・双眼鏡・汚れてもよい服装・履きなれた靴

名東自然倶楽部

団体の目的・主な活動内容

主に、猪高緑地の保全活動を行っています。その目的の為の活動を8つのグループがそれぞれの分野で行なっています。

- ①里山保全グループ…猪高緑地内の竹林管理、植物保護などの保全活動を行っています
 - ②田んぼグループ…復元した棚田で、一年を通した「コメ作り」を体験してもらっています。
 - ③炭焼きグループ…猪高緑地で増えすぎている竹を伐採し、竹炭を焼いて、有効利用しています。
 - ④自然観察グループ…猪高緑地(第4日曜日)、牧野ヶ池緑地(第3土曜日)、明德公園(第4土曜日)、(それぞれ9:30~12:00、8月・12月休み)で自然観察会を開催し、自然豊かな緑地の魅力を伝える活動をしています。
 - ⑤総合学習グループ…近隣の小中学校の総合学習の時間で環境学習に協力しています
 - ⑥竹クラフトグループ…猪高の竹で竹トンボ等の竹玩具や道具を作って有効利用しています。
 - ⑦調査グループ…緑地の保全の為に、生物、地形、水質の調査や保護活動を行っています。
 - ⑧畑グループ…2018年度にできた新しいグループです。
- グループ単独のみでなく、各グループが連携して、全体活動やイベントの運営を行っています。

令和元年度の活動について

活動の一覧は右記 Web ページを参照願ひます <http://sizen.ciao.jp/schedule/2019schedule200220.pdf>



▲谷地田で田植え

活動団体の紹介

主な活動場所 猪高緑地(名東区)

名東自然倶楽部

E-mail: k-takagi@zd6.so-net.ne.jp

ウェブサイト: <http://sizen.ciao.jp/>

■例会の予定: 全体活動日 毎月第1土曜日9:30~12:00、各グループの活動日はホームページを参照願ひます

もりづくり会議

団体の目的・主な活動内容

わたしたちは、身近な森である鎮守の森をよりよく保全するため、またその方法を検討してするために、千種区の城山八幡宮を主なフィールドとして活動をしています。小規模な会ですが、みんなで案を出し、様々な企画をわきあいあいと行っています。

もりの保全活動を通じてつながる、人の輪づくりも大切にしています。お気軽に活動を見に来てください。

令和元年度の活動について

本年度に限らず、今までの活動について紹介します。

月1回、定例会議と定例活動を行っています。定例活動の主な内容は、基礎的な活動として、清掃、シュロ・ササ等の除伐、枯れ枝払い、樹名板の製作と設置等を行い、季節的な活動として、アベマキ、アズキナシ、カマツカ等の苗木作りと植樹、生きもの観察会、クラフト作成などを行っています。年末の忘年会では、メンバー自作のゲームやプレゼント交換などを楽しみながら一年の活動を振り返ります。これまでに、なごや生きもの一斉調査のくつつき虫編（2019年）、アリ編（2018年）、淡水貝編（2017年）、カマキリ編（2015年）や陸貝編（2012年）にも参加してきました。

2019年からは、城山八幡宮をはじめ、城山・覚王山地区に残る鎮守の森や斜面林の植生調査を行い、在来種や希少種の保全活動に力を入れていきます。また、定例の自然観察会や夏のクラフト活動などを企画しています。



活動団体の紹介

主な活動場所 城山八幡宮 ほか城山・覚王山地区内の樹林地

もりづくり会議

E-mail : morikaigi66@gmail.com

■例会の予定：月1回、定例会議と定例活動

守山リス研究会

団体の目的・主な活動内容

1990年から名古屋市東谷山を中心として生息する野生のリス・ムササビをはじめ哺乳動物とその生息地の調査・保全をする中で環境教育をすることを実施。また名古屋市や周辺地域の住民が地域の歴史、文化を含めた「ふるさとの宝」として思い、守っていく活動を目指しています。

- (1)生息する野生のリスをはじめとする哺乳動物とその生息地の調査・保全。
- (2)そういった活動の中で調査された情報を環境教育プログラムとして実施
- (3)さらに名古屋市や周辺地域の住民が「ふるさとの宝」として思い、守っていくまじづくりを進めるための活動を実施。
- (4)地質や自然の調査保全に獣害、外来種などの対策や神社・古墳の歴史、文化を含めて調査学習し、全てを記録に残して月報「リス研通信」として会員・関係者に報告しています。



平成30～令和元年度の活動について

- (1)毎週5項目調査として①10台以上の自動撮影装置を1年中森に設置してその行動、生態を調査。②指定樹木20本の胸高直径計測、③指定林床（スズカカンアオイ、ササユリ、ムヨウラン、等）5カ所の日照・気温・湿度・風速計測、④給餌残数計測⑤湧水計測を5年以上継続。調査時には動物のフン調査・堅果木の実計測調査・テレメ調査で、巣位置・繁殖・棲み分け・行動を調査（ニホンリス、ムササビ、ニホンイタチ、ニホンキツネ、ニホンテン、ニホンカモシカ、アカネズミ、イノシシ、カネコなど）
- (2)調査は毎週土曜日だが、なごや環境大学共育講座（14年以上継続）として第三・四土曜日の活動を公開しリス捕獲調査・知恵比べによる発見学習・課題解決学習を体験提供、②環境デーなごや（11年以上継続のフィールド活動）、③東海自然学園講座（30人x2回 13年以上継続）、④愛知サマーセミナー（13年以上継続の座学とフィールド活動）、⑤秋版オータムフェス出展・リースワークショップ実施⑥エコパルなごやでのリース・ワークショップ活動実施・⑦トワイライトスクールでの座学・リース・ワークショップ実施（月1回3年継続）
- (3)地域の獣害・外来種（イノシシ、アライグマ、ハクビシン、ヌートリア）の行動調査実施、山や森の浸食防止のための山道補修維持、エサ樹木の維持植樹、など山や森が浸食されないような調査保全活動を実施。
- (4)①人間にも影響するSFTSダニ感染症の継続事前調査、②イノシシ拡大によるヤマビル拡大可能性事前調査、③カネコ徘徊によるトキソプラズマサイクルの成立状況継続調査、④オオキンケイギク除伐継続10年、⑤ムネアカハラビロカマキリ駆除3年⑥タイワンタケクマバチ駆除3年など内外寄生虫や外来種の調査・駆除を継続実施、⑦テンの解剖を体験⑧ニホンミツバチの飼育と飼育者養成学校開始し調査開始し、ツツリガ・スズメバチなどのデータを収集開始。
- (5)調査をする中で小中学生の観察力強化・環境教育として①市内小中学校の総合学習支援②環境サポーターズとしてトワイライトスクール支援（3年継続）拡大や、③大学生ボランティアの長短期受入指導、④2015年より継続している卒論テーマ調査のための名城大の学生さん年間支援とインターン受入活動実施、⑤岐阜大学との協働で教員免許更新のための先生向け講座⑥名古屋国際学園への英語による座学・フィールド活動や⑦高校生（クラーク国際学園高校のゼミ授業他）支援のための活動実施。
- (6)以上のような調査保全活動と環境教育の一体化活動で2018年あいち環境賞受賞。

活動団体の紹介

主な活動場所 東谷山・森林公園ゴルフ場・森林公園・岐阜金華山・軽井沢・孺恋

守山リス研究会

TEL/FAX : (052) 795-2616 E-mail : risuken@kzc.biglobe.ne.jp

ウェブサイト : <http://risuken.sakura.ne.jp/>

■例会の予定：定期調査／毎週土曜日 9：30～13：30

なごや環境大学共育講座+リス捕獲調査：第3土曜日 9：30～13：30（第4土曜日は知恵比講座）

野生動物生態研究会

団体の目的・主な活動内容

名城大学農学部生物環境科学科・環境動物学研究室の附属サークルです。水生生物部門、鳥部門、哺乳類部門の三つに大きく分かれており、なごや生物多様性保全活動協議会をはじめとする各環境保全団体と協力しながら活動しています。

令和元年度の活動について

環境デーなごや、あいち・なごや生物多様性EXPOへのブース出展。

水生生物部門：カワバタモロコの繁殖や水路、ため池の生物調査。庄内緑地公園ガマ池の池干しへの参加。
鳥部門：名古屋近辺での探鳥会の開催。探鳥地への遠征。野鳥の会のサギ調査への参加。
哺乳類部門：守山リス研究会の定期調査への参加。なごや生物多様性センターでのアライグマの解剖。



活動団体の紹介

主な活動場所 名古屋市周辺

野生動物生態研究会

公式Twitterアカウント：@yamonken_abms

■定例会：名城大学E403で毎週水曜日12：30～12：50

矢田・庄内川をきれいにする会

団体の目的・主な活動内容

きれいにする会は昭和49年12月27日に結成（会則は翌年5月制定）されました。当時の日本は高度成長期の真ただ中にあり、水も大気も汚れるのが当たり前の時代でした。その時、きれいにする会は「庄内川水系を汚すすべての汚染源に対し、きれいで快適な生活環境をとり戻し、次代へ引きつぐ」ことを目的として掲げ、活動を開始しました。

令和元年度の活動について

- ・「矢田川で魚を捕ろう」の実施（6月）
- ・「庄内川河口・二枚貝調査」の実施（6月）
- ・「ウナギ登りアシスト活動」の実施（7月）
- ・「水辺で乾杯in庄内川」の実施（7月）
- ・「矢田川の源流を訪ねよう！」の実施（8月）
- ・「ウナギ遡上調査」の実施（8月）
- ・「第9回庄内川天然アユ釣り大会」の実施（9月）
- ・「第45回庄内川まつり魚釣り大会」の実施（11月）
- ・「庄内川水系・魚道視察団2020」の実施（1月）

その他

- ・「庄内川水系にアユ遡上100万匹大作戦」が第20回中部未来創造大賞（奨励賞）を受賞

活動団体の紹介

矢田・庄内川をきれいにする会

TEL：(052)794-3876 FAX：(052)796-2344 E-mail：yadashounai@gmail.com

ウェブサイト：<http://www.yadashounai.org/>

■例会の予定：4月総会、以降不定期に役員会開催



▲庄内川河口・二枚貝調査



▲ウナギ登りアシスト活動

山崎川グリーンマップ

団体の目的・主な活動内容

都市河川である山崎川は、まわりの都市化と開発のため、戦後70年の間に大きく環境が変わりました。そして、現在は人が放流した外来種のために、本来の生態系が崩れつつありました。山崎川グリーンマップは2008年より、ミシシippアカミガメやカダヤシなどの外来種の防除を続けています。

近年の夏の猛暑と大型護岸工事により、山崎川の環境は大きな影響を受けていると思われます。しばらく注意深く様子を見ていく必要があります。

令和元年度の活動について

- ① 5月14日（火）…瑞穂区汐路小学校の4年生総合学習
- ② アユ遡上調査などの生物調査と外来種防除…5月13日～10月30日までに数回アユの遡上を確認 2008年より継続しているミシシippアカミガメ防除については、数が減り、6匹のみ（すべてメス）取り除く。特定外来生物のオオカワジシャの生息確認。
- ③ 7月28日（日）夏休み山崎川生き物観察会実施。
参加者は、豊岡小学校、陽明小学校、汐路小学校などから32名。中学生1名、スタッフとして小学生1名。その他、講師とスタッフ18名。



▲ 5月14日瑞穂区汐路小学校での総合学習



▲ 7月28日夏休み山崎川生き物観察会

活動団体の紹介 主な活動場所 名古屋市内瑞穂区の中崎川

山崎川グリーンマップ

TEL/FAX：(052)841-6048 E-mail：a-ohya@sc.starcat.ne.jp

ウェブサイト：<http://www1.m1.mediakat.ne.jp/a-ohya/>

■例会の予定：不定期（ウェブサイトを確認下さい）

こんにちは。
自然環境調査の専門家集団、
株式会社テクノ中部です。



私たちはSDGs達成に向けた
取組をすすめています。

- ▶ 動植物調査
- ▶ 生態系調査
- ▶ 景観調査
- ▶ 人と自然との触れ合い活動の場調査
- ▶ 外来生物調査
- ▶ 淡水域調査、干潟・浅場調査、海域調査



〒455-8512

名古屋市港区大江町3-12

株式会社テクノ中部

●営業部 ☎052-614-7164

●環境技術センター

陸域調査G ☎052-614-7166

海域調査G ☎052-614-7167

<http://www.techno-chubu.co.jp>

当社には技術士をはじめ生物分類技能検定、環境アセスメント士、ビオトープ管理士など専門的な知識・技術を有する技術者が多数在籍しているとともに、学識経験者や各種研究機関との連携の実績も豊富です。レーダーシステム、レーザー測遠システム、ドローン、遺伝子解析など先進技術を調査手法にとり入れ、高精度かつ多角的な生物データの取得に努めています。



「なごや市民生きもの調査員」募集中！

なごや生物多様性保全活動協議会や協議会会員団体が行う生物調査や講習会、イベントなどの情報をメールでお届けします。どなたでも登録いただけます。詳しくは協議会ウェブサイトまで。

令和元年度 なごや生物多様性保全活動協議会 活動報告書

発行年月 令和2年4月

発行 なごや生物多様性保全活動協議会

(事務局：名古屋市環境局なごや生物多様性センター内)

〒468-0066

愛知県名古屋市天白区元八事五丁目230番地

電話 052-700-7792 FAX 052-839-1695

ウェブサイト <http://www.bdnagoya.jp>